

具体的施策名	I-1-(1) 学力向上の推進	現状・課題	授業力向上に向けた取組で、効果的な研修の実施、支援のあり方を検討する必要があります。また、全国学力学習状況調査においては、小学校では県平均を上回っており改善傾向が見られています。中学校においても一定の改善傾向が見られるものの、学力向上は大きな課題となっています。「早寝早起き朝ご飯」運動は、児童生徒の基本的な生活習慣の確立に寄与していますが、保護者が理解を深める取り組みが必要となっています。教育機関との連携については、取組方法等について検討する必要があります。
主管課	学校教育課		

		P (計画)	D (実施)	C (検証・評価)	A (改善)				
		当該年度事業計画	取組内容	検証	自己評価	内部評価 (意見)	外部評価 (意見)	次年度事業計画	
主 な 取 組	①学習指導の工夫・改善・充実	児童生徒一人一人の実態等を踏まえて、個に応じた「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導体制や指導方法の工夫・改善で授業力向上を目指し、各種研修会や研究指定校・研究グループ等の効果的な実施に取り組みます。 授業用ソフト（デジタル教科書等）や ICT 機器を活用した授業改善、新学習指導要領に対応した教育を推進するため、教員研修の充実に取り組みます。	(各種教科等研修会の実施) ・市小・中校長研修会 ・管理職及びミドルリーダー研修会 ・市初任者研・市中堅教諭等資質向上研修 ・市英語教育担当者研修会 ・市研究指定研修会 ・市情報教育研修会 ・市教育講演会	各種教科等研修会の実施 ・市小・中校長研修会（4回） ・市小・中教頭研修会（2回） ・管理職及びミドルリーダー研修会（1回） ・市初任者研修会（1回） ・市中堅教諭等資質向上研修（2回） ・市英語教育担当者研修会（1回） ・市研究指定研修会（7回） ・市情報教育研修会（10回） ・市教育講演会（1回）	各種研修会を計画的に実施することができた。また、10回の市情報教育研修会及び各学校校内研修等によりICTを効果的に活用した授業改善が見られる。教師も児童生徒も日常的に活用する姿が見られるようになってきた。	【②について】 ・家庭間で差が出るが、児童生徒に対して、生活習慣の乱れに関する悪影響の講話等を充実させ、自分事として考えてもらいたい。  ・基本的な生活習慣の確立は、非常に大切なことだと思う。CSの中で取組を進めることで、機運を醸成できれば良いと思う。取組を進めているCSがあれば、周知して広げていければと思う。	【全体について】 ・各種研修会での教職員の職務能力の向上や小中一貫した合同研修会の実施等の充実した取組ができている。  【②について】 ・同じ時間に寝て起きることができていない場合は、自律神経が乱れていることや家庭の問題があるかもしれませんが、個人情報につながるようになるので、児童生徒個人に介入することは難しいかと思った。	・市小・中校長研修会 ・市小・中教頭研修会 ・管理職及びミドルリーダー研修会 ・市初任者研修会 ・市中堅教諭等資質向上研修 ・市英語教育担当者研修会 ・市研究指定研修会 ・市情報教育研修会 ・市教育講演会	
		令和6年度 目標値 校内外の研修・研究会での成果を教育活動に積極的に反映させている割合 授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っている割合 【96.3%】	令和6年度 目標値 授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っている割合 【100%】	令和6年度 実績値 授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っている割合 【100%】				令和7年度 目標値 授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っている割合 【100%】	
	②基本的な生活習慣の確立	基本的な生活習慣の確立に向けて、「早寝早起き朝ご飯」運動を推進し、児童生徒の学習の基盤を育てる取組を行います。 家庭学習や読書の習慣化を図るために、「家庭学習チームシート*」の効果的な活用を推進するとともに、家庭と連携した読書活動を推進します。	・各小中学校へのパンフレット配布  ・家庭教育研修会・講演会での周知の充実	・小1、中1を対象にパンフレット配布  ・家庭教育研修会での周知 ・「家庭学習チームシート」の活用に代わり、「自学自習ガイド」に基づいた家庭学習の推進	基本的な生活習慣の確立は各家庭での役割が大きいため、間接的ではあるがその機運づくりにつなげた。  県教育長が作成した「自学学習ガイド」を参考に各学校における家庭学習の在り方について引き続き支援をしていく。	A	【③について】 ・中学校区で連携した教育の推進におけるCSの報告会に教職員はもとより地域の方々、団体、行政や学校によっては児童生徒が参加し、研究協議の充実が図られていることから評価できる。	【③について】 ・中学校校区での連携した教育の推進では、中学校校区ごとに小学校や中学校の先生方や地域の方と意見交換をすることができていると評価する。	・各小中学校へのパンフレット配布 ・家庭教育研修会・講座での周知
		令和6年度 目標値 早寝早起きが習慣化している児童生徒の率 【87.5%】	令和6年度 目標値 【87.5%】	令和6年度 実績値 同じ時間に寝て起きている86.3% ※同じ時間に起きている91.5% ※同じ時間に寝ている81.2%			令和7年度 目標値 早寝早起きが習慣化している児童生徒の率 【87.5%】		
	③中学校校区で連携した教育の推進	学びの一貫性と小学校から中学校への確かな接続を図るため、授業力向上に向けた小中合同での研修会等を開催し、中学校校区で連携した教育を推進します。	・中学校区共通実践事項の徹底 ①小中合同研修 ②中学校区CS推進学校訪問	・中学校区共通実践事項の徹底 中学校区CS推進学校訪問と小中合同研修会を同時に実施【名護小（名護中校区）、緑風学園（ひるぎ学園参加）、大宮中（大宮中校区）、稲田小（羽地中校区）、東江小（東江中校区）、久辺中（久辺中校区）、屋部中（屋部中校区）】	予定されていたCS推進学校訪問に校区小中職員、地域の方も参加し合同の研修協議が実施できた。	A		・中学校区共通実践事項の徹底 ①小中合同研修 ②中学校区CS実践発表会	
		令和6年度 目標値 中学校校区での研修会を行った割合 【77.8%】	令和6年度 目標値 中学校校区での研修会を行った割合 【100%】	令和6年度 実績値 中学校校区での研修会を行った割合 【100%】			令和7年度 目標値 中学校校区での研修会を行った割合 【100%】		

	④教育関係機関と連携した教育の推進	名桜大学をはじめとする教育機関と連携し、確かな学力の向上および教職員の授業力向上に向けた取組を推進します。	下記取組について教育機関と連携を図る。 ・自由研究対策 ・小中学校初任者研修 ・小中学校中堅教諭研修 ・出前授業 ・小学校科学クラブへの協力	○ALL やんばる まなびのまちプロジェクト ・サイエンスクラブ（屋部小・名護中・大北小・名護小・久辺小） ・ジョブシャドウ、職業体験協力 ・出前授業 ○名桜大による性教育講話  ※小中学校初任者研修・中堅教諭研修では取り組みなし	各学校と教育機関の連携ができています。引き続き、周知も含め連携に努めたい。	A			下記取組について教育機関と連携を図る。 ・自由研究対策 ・小中学校初任者研修 ・小中学校中堅教諭研修 ・出前授業 (小学校科学クラブや理科授業への協力)
総合評価							A	A	

具体的施策名	I-1-(2) 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進
主管課	学校教育課、(教)総務課

現状・課題	新学習指導要領で示された「特別の教科道徳」について、教職員が内容を理解し授業改善ができるよう支援することが求められています。キャリア教育*については、継続した周知と支援活動を行い、質の高いキャリア教育を目指して、受け入れ地域の拡大や企業への協力要請をさらに推進する必要があります。不登校児童生徒数は増加しており、不登校が継続している児童生徒が多いため、どのように支援し、登校復帰につなげられるか検討が必要です。中学校での部活動や小学校におけるスポーツ少年団等の活動において、適切な休養日の設定等、指導や運営体制についての検討が求められています。
-------	--

		P (計画)	D (実施)	C (検証・評価)		A (改善)			
		当該年度事業計画	取組内容	検証	自己評価	内部評価 (意見)	外部評価 (意見)	次年度事業計画	
主な取組	①豊かな人間性を育む教育の充実	<p>「特別の教科道徳」を中心に、すべての教育活動で「心の教育」を推進できるよう、各学校における人権・平和教育への支援や道徳教育、特別活動等の研修を推進します。</p> <p>いじめや不登校、問題行動等の早期発見・早期対応等、学校が組織的に生徒指導に取り組めるよう、「登校支援リーフレット」の活用や教育相談計画訪問や生徒指導連絡協議会等の充実に努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回の「人権の日」の実施</li> <li>・生徒指導連絡協議会の開催 (年4回)</li> <li>・いじめ問題対策連絡会の開催 (年2回)</li> <li>・不登校プロジェクト会議の開催 (月1回)</li> <li>・教育相談訪問の実施 (全小中学校・年1回)</li> <li>・生徒指導支援者の配置9校 (各校1名配置)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回の「人権の日」の実施</li> <li>・生徒指導連絡協議会の開催 (年4回)</li> <li>・いじめ問題対策連絡会の開催 (年2回)</li> <li>・不登校プロジェクト会議の開催 (10月開始 計4回)</li> <li>・教育相談訪問の実施 (全小中学校・年1回)</li> <li>・生徒指導支援者を9校 (各校1名) に配置し、児童生徒への支援活動を展開</li> </ul>	有識者や各機関で構成する不登校プロジェクト会議を立ち上げ、不登校児童生徒に対する専門的な助言を行っている。各種研修を通して、各学校との連携が図られている。管理職、生徒指導主任や教育相談担当者等との連携を図り、教育相談体制の充実を図ることで、児童生徒の安全・安心につながる取り組みが行われた。	A	<p>【①について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校プロジェクトに年1回でも民生委員の参加を検討したらどうか。</li> <li>・名護市でも登校しぶりや不登校児童が増加傾向にある中、行政・学校・地域が連携し、支援体制が充実してきている。引き続き人的配置の拡充を図りながら登校復帰につなげていってほしい。</li> <li>・学校現場と連携した取組の充実に、引き続き取り組んでほしい。</li> </ul>	<p>【①について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各機関の担当者を集めての不登校プロジェクト会議を月1回設けていることは特筆できる。</li> <li>【②について】</li> <li>・自己肯定感を持つ児童生徒の割合が84.9%と高く、継続した取組が十分できていると評価する。</li> <li>・ジョブシャドウイングや職場体験の取組も各学校充実しており、コーディネーターの活躍が期待される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回の「人権の日」の実施</li> <li>・生徒指導連絡協議会の開催 (年4回)</li> <li>・いじめ問題対策連絡会の開催 (年2回)</li> <li>・不登校プロジェクト会議の開催 (月1回)</li> <li>・教育相談訪問の実施 (全小中学校・年1回)</li> <li>・生徒指導支援者の配置9校 (各校1名配置)</li> </ul> <p>令和7年度 目標値 【全実施】</p>
	②豊かな社会性を育む教育の充実	<p>児童生徒一人一人のキャリア形成と自己実現を図るため「キャリアパスポート*」の活用を推進します。</p> <p>キャリア教育コーディネーターを活用した、名護市の「ヒト・モノ・コト」にふれる職場体験 (中学校)、ジョブシャドウイング* (小学校) や職業人講話の充実に努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジョブシャドウイングの実施 (13校)</li> <li>・職場体験の実施 (8校)</li> <li>・キャリアパスポートの活用研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジョブシャドウイングの実施 (13校)</li> <li>・職場体験の実施 (11校※名護中・緑風・東江中が2つの学年で実施)</li> <li>・キャリア教育に係る研究会の実施 (2回)</li> </ul>	計画した全校で実施することができた。新規受け入れ事業所も13箇所増え、充実したキャリア教育につながった。また、キャリア教育コーディネーターの配置により、学校と受入事業所をつなぐ窓口の一本化が継続されていることで、双方の問題にスムーズに対処することができている。	A	<p>【②について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校における職場体験、小学校におけるジョブシャドウイングの実施の成功は、キャリア教育コーディネーターの存在と窓口の一本化が功を奏している。</li> <li>・キャリア教育コーディネーターの役割が十分に果たされ、職場見学・体験が充実し成果を上げている。</li> </ul>	<p>【③について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の地域展開は、大規模校・中小規模校で課題が違っているかと思ひ、なかなか解決策を出すことは難しいかと思うが、引き続き部活動の地域展開に向けた活動をお願いしたい。</li> <li>・小中学校において、それぞれで体力向上の取組がなされているが、具体性に欠ける場合も考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジョブシャドウイングの実施 (13校)</li> <li>・職場体験の実施 (8校)</li> <li>・キャリア教育に係る研究会の実施 (1回)</li> </ul> <p>令和7年度 目標値 自己肯定感を持つ児童生徒の割合 【85%】</p> <p>キャリアパスポートの活用 【全校】</p>
	③健やかな心と体を育む教育の充実	<p>新体力テスト及び泳力調査の分析を基に各学校の課題に応じ、体力向上のための「一校一運動」を奨励します。</p> <p>防犯・防災教育の充実に向けた研修会や合同調査を実施し、児童生徒の安全安心に向けた取組の充実に努めます。</p> <p>令和元年度に策定した「名護市運動部活動等の在り方に関する方針」に基づいて、各学校における運動部活動等の指導・運営体制の構築を推進します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「名護市運動部活動等の在り方に関する方針」に沿った運営や指導、適切な休日等の設定を実施。</li> <li>○県の方針改定を参考に「名護市運動部活動等の在り方に関する方針」の改定・周知</li> <li>○部活動の地域移行に向けた検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「名護市運動部活動等の在り方に関する方針」の周知</li> <li>○部活動の地域展開についての県研修会の参加</li> <li>○要請に応じた該当児童生徒や保護者及び教員へのカウンセリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○令和4年度に改訂した「名護市運動部活動等の在り方に関する方針」に基づき適切な運動部活動の運営を各学校は実施している。</li> <li>○部活動の地域展開に向けた取組は情報収集のみにとどまっており、国や県の動向を踏まえ検討を進めていく必要がある。</li> <li>○小学校の教育計画では「一校一運動」が位置付けられているが、中学校においては部活動改革の流れの中で見直されている。</li> </ul>	A	<p>【④について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育の推進では、「お弁当の日～ハッピーランチ～」というものがありますが、とても良い取組みだと思う。親は忙しい毎日で、一緒に買物に行くと、余計なものを買わされたり、時間がかかったりするので、このイベントのお陰で、一緒に買い物したり、「何をお弁当に入れる？」等の会話が弾んだり、また、家庭菜園で作っているものから収穫して材料にしたりと、とても良い経験や体験をしていると感じる。</li> </ul>	<p>【④について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育だより拝見し、イラストも入り、楽しい文面で、手間や時間もかかっており、すごいと思った。</li> <li>・栄養教諭と連携した食育の取組が充実することを願う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「名護市運動部活動等の在り方に関する方針」に沿った運営や指導、適切な休日等の設定を実施。</li> <li>○県の方針改定を参考に「名護市運動部活動等の在り方に関する方針」の改定・周知</li> <li>○部活動の地域展開に向け有識者等から意見を聴取し検討を行うための懇話会の設置・開催</li> </ul> <p>令和7年度 目標値 全国体力・運動能力検査結果 (実技度数分布総合評価) 中学校 【男子 (+0.7)】 【女子 (-2.5)】</p>

	④食育の推進	<p>養護教諭・栄養教諭と連携した食育指導を推進します。</p> <p>各家庭で食生活や生活習慣について考え、また、子どもが地元の産業、職業に関心を持つよう、食育講演会を開催します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食育に関する授業の支援</li> <li>・献立表による食育に関する情報提供</li> <li>・広報誌やホームページにて給食センターの取組について発信を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各給食センターに配置された栄養士による食育に関する授業の支援を実施</li> <li>・献立表による食育や地元食材に関する情報提供を実施</li> <li>・広報誌にて、給食センターの取組を掲載</li> <li>・ホームページに献立表や食育だよりを掲載</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食に対する興味・関心を高めることを目的に、栄養士による食の指導や食育講話、授業支援を実施しており、引き続き各学校と連携して食育を推進していきたい。</li> </ul>	A			<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養士による食育授業実施への協力</li> <li>・献立表・食育だよりによる食育に関する情報提供</li> <li>・広報誌やホームページにて給食センターの取組について発信を行う。</li> </ul>
総合評価						A	A		

具体的施策名	I-1-(3) 特別支援教育の充実
主管課	学校教育課

現状・課題	校内支援体制が十分でない学校への支援や医療的ケアの必要な児童生徒への対応が課題となっています。 また、特別支援教育*に係る子ども理解のための研修は継続して行う必要があります。
-------	--

		P (計画)	D (実施)	C (検証・評価)		A (改善)				
		当該年度事業計画	取組内容	検証	自己評価	内部評価 (意見)	外部評価 (意見)	次年度事業計画		
主 な 取 組	① 特別支援教育の充実	<p>児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め生活や学習上の困難を改善又は克服するための校内体制の支援を図ります。</p> <p>学校と医療、福祉等の関係機関との連携を図り、早期からの相談・支援に取り組めるよう、教育支援体制の充実に努めます。</p> <p>特別支援教育コーディネーターや校内教育支援担当者を中心とした特別支援教育を行うための体制整備を支援するため、研修等の充実に努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援コーディネーター連絡会 (年2回)</li> <li>要請に応じた該当児童生徒や保護者及び学級担任との面談</li> <li>特別支援教育支援者の配置 (19校に35人)</li> <li>特別支援教育支援者連絡会 (年5回)・特別支援コーディネーター連絡会 (年2回)</li> <li>要請に応じた該当児童生徒や保護者及び学級担任との面談</li> <li>特別支援教育支援者の配置 (19校に34人)</li> <li>特別支援教育支援者連絡会 (年5回)</li> <li>名護市教育支援委員会の開催</li> <li>特別支援教育コーディネーター研修会 (年2回)</li> <li>名護市教育支援委員会の開催</li> <li>特別支援教育コーディネーター研修会 (年2回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援コーディネーター連絡会 (年2回)</li> <li>要請に応じた該当児童生徒や保護者及び学級担任との面談、授業参観</li> <li>特別支援教育支援者連絡会 (年4回)・特別支援コーディネーター連絡会 (年2回)</li> <li>特別支援教育支援者の配置 (19校に34人)</li> <li>名護市教育支援委員会の開催</li> <li>特別支援教育コーディネーター研修会 (年2回)</li> </ul>	<p>当初計画どおりの連絡協議会・面談活動・連絡会の実施により所期の目的は達成された。</p> <p>学校からの要請が多く、支援者の配置に工夫が必要である。</p> <p>教育支援申請に100%対応できた。</p> <p>通級指導教室の新規設置を望む声は多く、今後も引き続き沖縄県へ通級指導教室新規設置について要請を行う。</p> <p>インクルーシブ教育の考えのもと学びの場の見直しについての校内支援委員会が必要。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育支援申請について、100%の対応を継続してほしい。</li> <li>中・大規模校では、支援対象児童生徒が増え、それに伴い、特別支援学級の設置数も増え、更に通常学級に在籍し支援を必要とする児童生徒が増加傾向にある。特別支援教育支援者の人数を増やすことが可能か検討をお願いしたい。</li> <li>特別支援教育の充実に日々取り組んでいることに感謝している。厳しい状況の中、支援員の要請にはできるだけ応えていけるよう努めてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援を要する児童生徒は増え、いろいろな特性を持った児童生徒がいることになると思うので、専門の方が入って、児童生徒が学校で楽しく過ごせるようになることを期待する。</li> <li>個別の指導計画の作成率が100%となっており、十分な取組がなされている。</li> <li>個別の支援計画や個別の指導計画は目標値、達成値も100%なので、次回の計画策定の際には、他のレベルアップした取組を設定することも考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援コーディネーター連絡会 (年2回)</li> <li>要請に応じた該当児童生徒や保護者及び学級担任との面談</li> <li>特別支援教育支援者の配置 (19校に35人)</li> <li>特別支援教育支援者連絡会 (年5回)</li> </ul>	
		令和6年度 目標値 個別の指導計画の作成率 (特別支援学級・通級*・作成が必要な児童生徒)	令和6年度 目標値 個別の指導計画の作成率 (特別支援学級・通級*・作成が必要な児童生徒)	令和6年度 実績値 個別の指導計画の作成率 (特別支援学級・通級*・作成が必要な児童生徒)	令和7年度 目標値 特別支援学級・通級支援教室担当者の特別支援免許の習得率					
		【100%】	【100%】	【100%】	【小学校 (45%)】 【中学校 (25%)】					
個別の支援計画の作成率 (特別支援学級・通級・作成が必要な児童生徒)	個別の支援計画の作成率 (特別支援学級・通級・作成が必要な児童生徒)	個別の支援計画の作成率 (特別支援学級・通級・作成が必要な児童生徒)								
【100%】	【100%】	【100%】								
総合評価						A	A			



具体的施策名	I-1-(5) 幼児教育の充実	現状・課題	平成30年度に施行された幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領において、生きる力の基盤となる3つの資質・能力「知識及び技能の基礎」「思考力・判断力・表現力の基礎」「学びに向かう力、人間性」が示されています。これを受け、それぞれの教育・保育を幼児教育として共通に捉えるとともに、乳幼児からの発達と学びの連続性の確保、幼児教育と小学校教育との円滑な接続を目指していくことが必要となっています。
主管課	こども家庭部 保育・幼稚園課、学校教育課		

		P (計画)	D (実施)	C (検証・評価)		A (改善)			
		当該年度事業計画	取組内容	検証	自己評価	内部評価 (意見)	外部評価 (意見)	次年度事業計画	
主な取組	① 保育者の資質能力の向上	市内すべての幼児教育に携わる保育者のキャリアステージ*に応じた資質能力の向上を図るため、保育者育成指標を策定し、周知します。 また、公立幼稚園において、専門指導員、指導主事による保育参観及び保育研究会を行うとともに、外部講師招へいによる各種研修会をすべての就学前施設へ参加呼びかけのもと開催し、幼稚園教諭、保育士、保育教諭の資質向上を図ります。	1 市立幼稚園及び市立認定こども園における要請に応じた保育参観及び保育研究会で助言を行う。 ・8園 2 名護市内の幼児教育の質の向上を図るため各種研修会を実施する。 ○保育者等研修会の開催 ・年間6回主催 ○名護市園長等研修会 ・年間2回実施  ○私立園長等研修会 ・年1回実施	1 市立幼稚園及び市立認定こども園全園において、専門指導員、指導主事による保育参観及び研究会を実施した。(全30回) 2 名護市内の幼児教育の質の向上を図るための各種研修会を実施した。 ○保育者等の資質向上に資することを目的に、作業療法士、大学教授、県幼児教育アドバイザー等各分野の専門家の方々を招聘し、実技・グループ協議・講話による研修を実施。 ○公立園長等研修会を2回実施。その内1回目の研修会では、市内の公立幼稚園小学校校長・園長、幼児教育施設園長が一堂に会し、幼児教育と小学校教育との円滑な接続についての講話を実施。 ○私立園長等研修会では、県の労働環境改善支援事業を活用し、保育所等の人材育成とキャリアパス整備についての講話を実施	1 全園の園内研修テーマを「幼保こ小架け橋カリキュラム」に統一し、取り組むことができた。 園内研修報告会では、小学校の連携担当教諭・校長先生の参加も多数あった。幼稚園での実践を伝えることができたことで、小学校の先生方からは、意識改革が授業改善につながるという感想も聞かれ、これからの連携の在り方への理解が深まった。また、外部講師より助言をいただき、今後の研究の手立てとなった。  2 各種研修会を計画通り実施することができた。研修後のアンケートからは、普段の保育を振り返ることができる機会となると共に新しい気づきがあり、今後も学び続けていきたいという意欲的な感想が多く寄せられた。今後も現場のニーズに応じた研修会を企画していきたい。	A	【全体について】 ・当該年度事業計画がほぼ実施され、取組内容も充実しており、検証結果に反映されている。今後も学びの連続性を踏まえた円滑な接続をお願いしたい。  【①について】 ・保育者の資質向上が図られることは、子どもたちの情緒の安定に繋がると思うので、より充実されることを願う。  ・名護市保育者育成指標を活用し、園長等のリーダーシップのもと、保育者の資質能力の向上に努めてほしい。  ・近年、保育者の暴言や、幼児に対する発言や行動などが問題に上げられているので、幼児教育の研修も大事ですがそれ以前の保育者の資質向上が大切だと感じる。  【④について】 ・発達の遅れや幼児の困り感に早期に気づき、支援することはとても大切なことだと思う。引き続き保育者の特支教育に関する研修会の充実を期待する。	【全体について】 ・取組は、十分なされると評価する。  ・幼児教育の充実に関しては、どの項目も充実しており、特に研修会の内容が素晴らしい内容なので、全保育士及び幼稚園教諭に浸透させることが重要である。  【①について】 ・研修に参加したいが、参加できない方もいると思うので、参加できなかった方も後日閲覧できるような情報発信ができると良いと思った。 ・引き続き子どもたちへの支援をお願いしたい。  【②について】 保幼こ小連携教育の推進では、各校での交流会などの子どもたちの学びや成長につながる取組ができている。	1 市立幼稚園及び市立認定こども園における要請に応じた保育参観にて助言を行う。 ・6園実施  校区の保育施設・小学校へ呼びかけ、市立幼稚園にて保育参観・保育研究会を行う。 ・3園実施  2 名護市内の幼児教育の質の向上を図るため各種研修会を実施する。 ○保育者等研修会の開催 ・年間5回主催 ○名護市園長等研修会 ・年間2回実施
		令和6年度 目標値 各種研修会への参加率 【100%】	令和6年度 目標値 研修会への参加率 【100%】	令和6年度 実績値 研修会への参加率 【93.3%】			令和7年度 目標値 研修会への参加率 【100%】		
		名護市保育者育成指標の策定 (令和2年度に策定済)	—	—			—		
	② 保幼こ小連携教育の推進	名護市保幼こ小合同連絡会を開催するとともに、年間計画に基づいた小学校区での保幼こ小合同連絡会での交流会や情報交換会、合同研究会等の実施により、すべての就学前施設と小学校との連携や円滑な接続を目指していきます。 小学校においては、スタートカリキュラム*を児童の実態を踏まえて見直し・編成し、幼児期において遊びを通して育まれてきたことが小学校の学習に円滑に接続されることを目指します。	・名護市保幼こ小合同研修会(年2回) ・小学校区保幼こ小連絡会 ・小学校区保幼こ小情報交換会 ・各小学校における交流会や体験入学の実施 ・各小学校におけるスタートカリキュラムの見直し、作成、実施	・名護市保幼こ小連絡研修会開催(年2回) ・小学校区保幼こ小連絡会実施 ・小学校区保幼こ小情報交換会 ・各小学校における交流会や体験入学の実施 ・各小学校におけるスタートカリキュラムの見直し・作成、実施	・当初計画通り、保幼こ小合同研修会、校区連絡会、情報交換会、交流会・体験入学が実施され、所期の目的は達成された。  ・全小学校においてスタートカリキュラムが作成され、幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けた教育課程が編成されている。  ・公開保育を今年度初めて行ったが、保育園・幼稚園・小学校の職員がそれぞれの視点で保育参観・研究保育に参加でき、子どもの育ちについて共有することができた。	A			・名護市保幼こ小合同研修会(年2回) ・小学校区連絡協議会 ・小学校区情報交換会 ・各小学校における交流会や体験入学の実施 ・各小学校におけるスタートカリキュラムの改善、実施 ・各校区の保幼こ小協働による架け橋期のカリキュラムの作成、見直し
		令和6年度 目標値 保幼こ小交流会活動への参加率 【100%】	令和6年度 目標値 保幼こ小交流会活動への参加率 【100%】	令和6年度 実績値 保幼こ小交流会活動への参加率 【100%】			令和7年度 目標値 保幼こ小交流会活動への参加率 【100%】		
		意見交換会への保幼こ小職員の参加率 【100%】	意見交換会への保幼こ小職員の参加率 【100%】	意見交換会への保幼こ小職員の参加率 【100%】			連絡協議会への保幼こ小職員の参加率 【100%】		

	③市立幼保連携型認定こども園の設置等	<p>小中一貫教育校緑風学園の敷地内に、市立久志幼稚園と市立瀬嵩保育所を統合した市立幼保連携型認定こども園*（令和3年度開園予定）の設置を進めます。</p> <p>幼保連携型認定こども園を設置することにより、適正な規模での教育・保育環境の確保及び就学前の一体的な教育・保育体制の整備、学びの連続性を踏まえた円滑な接続を図ります。また、教育・保育内容の指導助言を行う人員の配置を行い、市全体の就学前施設の教育・保育の向上を図ります。</p> <p>令和6年度 目標値 市立認定こども園の設置 (令和3年度に開園予定)</p>	<p>1 幼児教育から小学校教育への円滑な接続を行えるよう私立園への訪問し、理解促進を図る。</p> <p>2 沖縄県幼児教育アドバイザーの活用を促し、市内保育・教育施設の質の向上を図る。</p>	<p>1 名護市の乳幼児保育・教育施設（61園）を訪問し、名護市保育者育成指標活用についてプレゼンテーションを作成し説明を行った。また、園長や職員と話し合いを行い、園が工夫していることや支援してほしいこと等情報交換を行った。</p>	<p>1 今年度も全保育施設を訪問することで、園の状況を知ることや園と顔の見える関係性を構築することができた。また、名護市保育者育成指標について丁寧な説明をしたことで、活用が進んだ。</p>	A			<p>1 沖縄県幼児教育アドバイザーの活用を促し、市内保育・教育施設の質の向上を図る。</p> <p>・5園実施</p>
	④就学前特別支援教育の充実	<p>すべての幼児教育施設において保護者の要請に応じ、気になる幼児の発達障がい等の早期発見、早期支援を適切に対応できるよう、指導主事、専門指導員を配置し、訪問観察、相談、支援員等の配置による支援を進めます。特別支援教育に関する幼稚園教諭、保育士、保育教諭の資質向上を図るため、特別支援教育に関する研修会を開催するとともに、県教育センター研修の周知を図り、参加を促進します。</p>	<p>1 市立幼稚園、認定こども園における外部講師による保育参観及び保育研究会の実施。</p> <p>・2園実施</p> <p>※近隣の私立の保育施設の先生方も保育参加及び保育研究会に参加</p> <p>2 特別支援に関する講師を招聘し担任及び支援員等への研修会を実施する。</p> <p>・年3回実施 (①保育者等研修会と重複)</p> <p>3 市立幼稚園における特別支援教育の実施</p> <p>・指導担当と教育委員会の専門指導員が連携し、要請に応じた面談、相談、訪問観察、助言等を行っている。</p> <p>4 保育施設の訪問及び園や保護者の要望に応じた相談、面談、助言</p>	<p>1 作業療法士の森川氏を招聘し、市立幼稚園2園(大北・緑風こども園)の保育参観及び保育研究会を行った。</p> <p>2 研修会の実施</p> <p>①令和6年5月24日 講師 森川敦子氏(作業療法士)「幼児期における感覚の発達を促す遊びの実践」 集合型研修 70名</p> <p>②令和6年6月20日 講師 城間広子・池間純子氏(発達障害者支援センターがじゅまー)</p> <p>「発達障害の理解」と「気になる子の理解と保護者対応」 集合型研修 75名</p> <p>③令和6年8月21日 講師 名城健二氏(沖縄大学人文学部 福祉文化学科) 「愛着障害と発達障害の違いと対応方法を知る」 集合型研修 70名</p> <p>3 市立幼稚園(7園)</p> <p>①要請対応 22件 ②支援員配置 7園</p> <p>4 保育施設(44園) 訪問のべ138園</p> <p>①訪問観察(1864件) 内Eケア50件 ②就学に向けて(121件) 相談・面談(36件)・見学同行(35件)・Eケア(50件)</p>	<p>1 作業療法士による医学的な知見に基づいたアドバイスをいただくことで特別支援教育への理解が深まり、実践的指導力の向上につながった。</p> <p>2 幼稚園教諭、保育士、保育教諭の資質向上のために、特別支援に関する研修を行うことができた。今後も現場の要望に応え、実践的な研修ができるようにしていきたい。</p> <p>3 市立園は園で保護者面談や見学等保護者の対応を行うことができている。</p> <p>4 保育施設において、保育係の就学前教育専門指導員と看護師経験者である担当職員で園訪問や相談、見学、助言など幅広く対応できている。</p>	A			<p>1 市立幼稚園における外部講師による保育参観及び保育研究会の実施。</p> <p>・1園実施</p> <p>※希望する公立幼稚園、近隣の私立の保育施設、当該小学校教諭、支援員も保育研究会に参加</p> <p>2 特別支援に関する講師を招聘し担任及び支援員等への研修会を実施する。</p> <p>・年2回実施 (①保育者等研修会と重複)</p> <p>3 市立幼稚園における特別支援教育の実施</p> <p>・指導担当と教育委員会の専門指導員が連携し、要請に応じた面談、相談、訪問観察、助言等を行っている。</p> <p>4 保育施設の訪問及び園や保護者の要望に応じた相談、面談、助言</p>
総合評価							A	A	

具体的施策名	I-2-(1) 環境整備の充実
主管課	教育施設課、学校教育課

現状・課題	<p>学校施設の経年劣化や自然災害等様々な要因により、施設に不具合が生じていますが、その都度、学校からの要請や各種点検報告等を受け対応を行っています。引き続き良好な教育環境の提供に努めます。</p> <p>学校施設のグラウンドについて、安全性や機能性、環境への影響など各学校において様々な課題があり、特に水はけや表面が悪い状態にあるなど、児童生徒の活動に支障をきたしているグラウンドは全面的な整備が必要であり、学校や地域などからも、グラウンド整備についての要望が挙げられています。</p> <p>新学習指導要領に対応した授業を推進するためにタブレット端末等ICT*機器導入が求められています。デジタル教科書*の活用についての課題はありますが、新学習指導要領に対応した整備について検討する必要があります。</p> <p>通学区域の見直し等について、児童生徒数の増加や複式学級解消など様々な見地から検討をする必要があります。</p>
-------	--

		P (計画)	D (実施)	C (検証・評価)	A (改善)				
		当該年度事業計画	取組内容	検証	自己評価	内部評価 (意見)	外部評価 (意見)	次年度事業計画	
主な取組	理 ① 学校施設設備等の維持管理	<p>消防設備など各種委託している年次・月次点検はもとより、施設・遊具の点検や学校による随時点検により、不具合箇所の早期発見・修繕を実施して、施設及び遊具に係る事故を防止し、安全で安心な教育環境を維持していきます。</p> <p>令和6年度 目標値 施設及び遊具による事故件数 (計画年度中) 【0件】</p>	<p>・年1回の学校施設・遊具点検の実施。</p> <p>①点検の実施 12月 ②不具合箇所 0か所(施) 1か所(遊) ③修繕箇所 1か所</p> <p>令和6年度 実績値 施設及び遊具による事故件数 【0件】</p>	<p>・施設点検結果に基づき、早急に修繕を行い事故防止に努める事ができた。</p>	A	<p>【①について】</p> <p>・学校施設に関する維持・管理については、事故防止の観点から早期発見・早期改善等がなされ、良好な状態にあると思う。</p> <p>・学校施設において、事故がなく良かった。昨年度、運動場に打ち込まれた釘の抜き忘れがあり、事故がありました。引き続き抜き忘れがないよう、注意喚起をお願いしたい。</p>	<p>【全体について】</p> <p>・計画的に整備や実施に応じた改修等が上手くできていると思う。</p> <p>【③について】</p> <p>・児童生徒の成績情報漏洩対策等を含んだ情報セキュリティ研修になっていると思う。環境整備に加え、情報セキュリティも重要になると思うので、対応をお願いしたい。</p>	<p>・年1回の学校施設・遊具点検の実施。</p> <p>令和7年度 目標値 施設及び遊具による事故件数 【0件】</p>	
		<p>【新規掲載：教育振興基本計画記載なし】</p> <p>児童生徒が安全で安心して学校生活を送れるよう、市内学校施設に現存するブロック塀等について、「名護市ブロック塀等安全対策整備計画」に基づき、安全対策の整備を実施します。</p> <p>令和6年度 目標値 設計延長及び整備延長 (計画年度中) 設計延長 【L=1,049.1m】 整備延長 【L=887.6m】 整備済 【L=57.8m】 未整備 【L=829.8m】</p>	<p>・3校のブロック塀等安全対策整備に係る設計及び工事の実施</p> <p>①久辺中学校 改修工事 L=460.0m ②久辺幼稚園 改修工事 L=47.0m ③羽地小学校 改修設計 L=161.5m</p> <p>令和6年度 目標値</p> <p>設計延長 【L=161.5m】 整備延長 【L=507.0m】</p>	<p>・3校のブロック塀等安全対策整備に係る設計及び工事の完了</p> <p>①久辺中学校 改修工事 L=460.0m ②久辺幼稚園 改修工事 L=47.0m ③羽地小学校 改修設計 L=161.5m</p> <p>令和6年度 実績値</p> <p>設計延長 【L=161.5m】 整備延長 【L=507.0m】</p>	<p>・当初計画のとおり年度内で完了することができた。</p>	A	<p>【③について】</p> <p>・ICTに関して、苦手な人への支援の取組が必要である。</p> <p>・共有ドライブを活用して、先生方の情報交換の場になり、自己スキルアップにつながっていると感じる。</p> <p>・若い先生方が増え、これからもっと変化していく社会に、しっかりと対応できるように頑張っていたきたい。</p>	<p>・教育環境の整備について、計画通り「名護市立学校適正規模・適正配置に関する基本方針」を策定できたこと、児童生徒の一人一台端末を維持できていることなどから、取組が十分できていると評価する。</p> <p>・教育情報化推進計画に基づき ICT 研修が実施され、教職員の理解も高まり、充実が図られている。</p>	<p>・1校のブロック塀等安全対策整備に係る工事の実施</p> <p>①羽地小学校 改修工事 L=161.5m</p> <p>令和7年度 目標値</p> <p>整備延長 【L=161.5m】</p>
		<p>【新規掲載：教育振興基本計画記載なし】</p> <p>経年劣化により機能・性能が低下した建物について、耐久性及び機能性の向上を図るため、「名護市学校施設長寿命化計画」に基づき、長寿命化改良工事を実施します。</p> <p>令和6年度 目標値 長寿命化改良棟数 (計画年度中) 棟数【1棟】 整備済【0棟】、未整備【1棟】</p>	<p>・1校の長寿命化改良に係る工事の実施及び完了棟数</p> <p>①真喜屋小学校9号棟 改修工事 1棟</p> <p>令和6年度 目標値 ①改修工事 棟数【1棟】</p>	<p>・1校の長寿命化改良に係る工事の実施及び完了棟数</p> <p>①真喜屋小学校9号棟 改修工事 0棟</p> <p>令和6年度 実績値 ①改修工事 棟数【0棟】</p>	<p>・台風13号等の影響により、仮設校舎の建設に遅れが生じたことから、改修工事の工事着手が遅れ年度内での完了が困難となったため事業を繰越しました。 (令和7年6月完了予定)</p>	B	<p>・情報化推進計画に基づき、ネット環境の充実や人員配置、全職員を対象にした研修も適宜行われており充実した取組が行われている。</p> <p>・基本方針どおりに行っているか、各学校の流入と流出の状況をデータでまとめ、注意深く見ていく必要があると思う。</p>	<p>・長寿命化改良工事の実施無し</p>	
	<p>②小・中学校のグラウンド整備</p> <p>学校施設のグラウンドについて、様々な体験活動の場として活用し、たくましく心豊かな子どもたちを育成するため、児童生徒の活動に支障をきたしているグラウンドの全面的な整備を実施します。</p> <p>令和6年度 目標値 グラウンド整備校数 (計画年度中) 学校数【5校】 整備済【4校】、未整備【1校】</p>	<p>・1校のグラウンド整備に係る工事の実施及び完了校数</p> <p>①屋部小学校 整備工事 1校</p> <p>令和6年度 目標値 ①整備工事 学校数【1校】</p>	<p>・1校のグラウンド整備に係る工事の実施及び完了校数</p> <p>①屋部小学校 整備工事 0校</p> <p>令和6年度 実績値 ①整備工事 学校数【0校】</p>	<p>・屋部小学校普通教室棟新築工事(32号棟)の完了が当初の予定より遅れたことに伴い、本工事の工事着手が遅れ、年度内での完了が困難となったため事業を繰越しました。 (令和7年5月完了)</p>	B		<p>・1校のグラウンド整備に係る工事の実施及び完了校数</p> <p>①大宮小学校 整備工事 1校</p> <p>令和7年度 目標値 ①整備工事 学校数【1校】</p>		

	<p>③教育環境の整備</p>	<p>「名護市教育情報化推進計画」に基づきICT機器・インターネット環境の整備を計画的に推進するとともに、情報の安全管理に取り組みます。 将来的な児童生徒数の推移等を考慮した学校規模の適正化と適正配置を進めるとともに、小規模特認校制度の活用や学校通学区の見直し及び弾力化について、地域住民の意見も考慮しながら検討を行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校務用NWの改善</li> <li>・GIGAスクールサポーターによる教職員支援</li> <li>・情報研修会の実施</li> <li>・全教職員を対象とした研修の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通学区域等審議会を開催し、「名護市立学校適正規模・適正配置に関する基本方針」を令和7年2月に策定した。</li> <li>・校務用NWの改修（全校）</li> <li>・GIGAスクールサポーターを配置（合計5人）し、各学校のサポートを実施。</li> <li>・情報研修会の実施（10回）</li> <li>・全教職員を対象とした情報セキュリティ研修の実施。</li> <li>・共有ドライブの作成・運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本方針の策定に当たって開催した審議会においては、地域住民代表（区長）、保護者代表（PTA会長・副会長）も委員として参加して頂いた。次年度から基本方針に基づき地域住民・保護者等と意見交換を進めていく。</li> <li>・校務用NWの機器類や配線を見直し、改善を図った。</li> <li>・GIGAスクールサポーターを配置し、支援、トラブルに対する対応ができた。</li> <li>・情報研修会をとおして、活用スキルの向上を図った。また、情報セキュリティのオンデマンド型研修を実施した。</li> <li>・授業実践で活用した資料や教材を共有できるように共有ドライブを運営した。</li> </ul>	A			<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒用端末の更新</li> <li>・学校NW無線環境の改善</li> <li>・GIGAスクールサポーターによる教職員支援</li> <li>・情報研修会の実施</li> <li>・全教職員を対象とした研修の実施</li> <li>・「名護市立学校適正規模・適正配置に関する基本方針」に基づいた地域との意見交換会及び特色ある教育の検討</li> </ul>
総合評価						A	A		

具体的施策名	I-2-(2) 学校支援の充実
主管課	学校教育課、(教)総務課

現状・課題	長期研究員の研究成果を名護市全体で共有することが求められています。 小中一貫教育校において、中学校から小学校への乗り入れ授業*を行うことでより専門的な授業ができますが、小学校から中学校へはうまく乗り入れができていない課題があります。 地域学校協働活動推進員の次期計画期間の活動を学校支援の視点だけでなく、地域と学校の連携・協働活動の推進の視点で実施する必要があります。 教育の機会均等を図るため、保護者の経済状況にかかわらず、学ぶ意欲と能力を有する全ての子どもたちが質の高い教育を受け、能力・可能性を伸ばし、「確かな学力」が形成できる環境整備が望まれています。また、スポーツ活動や文化活動の面においても、様々な体験の機会を増やし、「豊かな心」、「健やかな体」を培う環境整備が望まれています。
-------	--

		P (計画)	D (実施)	C (検証・評価)		A (改善)			
		当該年度事業計画	取組内容	検証	自己評価	内部評価 (意見)	外部評価 (意見)	次年度事業計画	
主 な 取 組	① コミュニティ・スクールの推進	令和4年度までに全校を対象にコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)*を導入し、「学校・家庭・地域連携事業」の充実を図り、地域とともにある学校づくりを推進します。  令和6年度 目標値 コミュニティ・スクール導入校【21校】	コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)(以下「CS」という)。 ・CS推進委員会(年3回) ・CS推進学校訪問(7校) ・CS研究指定校 ・CS事務局ミーティング(年1回) ・CS講演会(年1回) ・地域連携担当教員研修会(年1回)	・CS推進委員会(年3回) ・CS推進学校訪問(7校) ・CS研究指定校(2校) ・CS事務局ミーティング(1回) ・CS講演会(年1回) ・地域連携担当教員研修会(年1回)	概ね予定通り実施できた。地域学校協働活動推進員については、前年度7名の委嘱数から16名に増え改善に取り組むことができた。	A	【②について】 ・イマージョン教育を、もっと活用し、特色の強化をすることで、児童生徒数の増加につながると思う。  ・特色を推進できる人事配置を要請することを含め、特色ある教育の充実に努めてほしい。  ・ひるぎと、緑風の学習の差は何か調査する必要がある。	【全体について】 ・コミュニティ・スクールの支援や特色ある教育活動の推進等の学校支援の取組は、十分なされていると評価する。  ・市内全学校にCS導入され、地域学校協働ネットワークの活用も推進されている。  ・「子ども夢基金」を活用し、給付型奨学金、児童生徒の県外派遣事業の活動が充実しており、学校支援(児童生徒支援)が充実している。	・CS推進委員会(3回) ・CS実践発表会(7校) ・CS研修会(1回) ・地域連携担当教員等研修会(1回) ・地域学校協働活動推進員の委嘱
	② 特色ある教育活動	小学校と中学校が一体となった施設及び学校運営の中で義務教育の9年間を一貫した指導体制により、小中一貫教育校「屋我地ひるぎ学園」及び「緑風学園」の特色ある教育活動の充実を図るための支援を行います。再び複式学級にならないように、児童生徒の減少に歯止めをかけるため、小規模特認校制度を継続して実施します。	【両校共通】 ・非常勤講師の配置(1人) ・日本人英語教師の配置(1人) ・裁量の時間を活用した補習指導、長期休業中の学び直し ・中学生を対象とした英検検定料の一人年1回全額助成 ・キャリア教育、自然体験学習及び地域人材等の活用  【緑風学園】 ・TT授業や乗り入れ授業等による個別指導の徹底 ・裁量の時間を活用した補習指導、長期休業中の学び直し ・英語科の授業におけるTT授業、実技教科における部分的イマージョン教育及び小学校からの文字指導  【屋我地ひるぎ学園】 ・TT授業を中心に個に応じた指導の徹底 ・英語科の授業におけるTT授業の実施	【両校共通】 ・日本人英語教師の配置(1人) ・非常勤講師の配置(1人) ・中学生を対象とした英語検定料の助成(年1回全額助成)  【緑風学園】 ・TT授業や乗り入れ授業等による個別指導の徹底 ・英語科授業におけるTT授業の実施 ・キャリア教育、自然体験学習及び稲作等の地域人材等の活用  【屋我地ひるぎ学園】 ・TT授業を中心に乗り入れ授業等個に応じた指導の徹底 ・英語科授業におけるTT授業の実施 ・キャリア教育、自然体験学習及び地域人材等の活用	【緑風学園】 非常勤講師やJTE(日本人英語指導助手)の配置によって、TT授業や個別指導を行った。 令和6年度県到達度調査において、中1の英語は県の平均を13.6ポイント上回り、中2では6ポイント、上回った。地域の自然や人材を活かしたCSを活用した総合学習の学習計画が作成されており、計画どおり実施されている。  【屋我地ひるぎ学園】 非常勤講師やJTE(日本人英語指導助手)の配置によって、TT授業や個別指導を行った。 令和6年度県到達度調査において、中1の英語は県平均を4.4ポイント下回り、中2は0.4ポイント下回った。地域の自然や人材を活かしたCSを活用した総合学習の学習計画が作成されており、計画どおり実施されている。	B	【④について】 ・教育相談の利用数が伸び、早期解決につながったことは、利用のしやすさがあったのではないと思う。  ・登校しぶりや不登校は、増加の一途を辿っている。その要因は、一概ではないゆえに、教育相談室や適応指導教室の役割は、とても重要であると思う。今後も保護者、学校・関係機関と連携を図りながら取り組んでほしい。  ・不登校増加の要因分析を行い、個別支援や学校支援の充実に努めてほしい。  【⑥について】 ・進学意欲のある生徒が、家庭環境や金銭的な問題で進学を諦めることがないように、これからも給付型奨学金の実施(拡充も視野に入れ)に向け取り組んでほしい。  ・周知活動や給付要件を検討する等の応募者が増えるよう工夫してほしい。	【④について】 ・小学4年生頃になると、いじめを意識して児童を注意して指導していることを聞いたことがあるので、成長の度合いに応じた指導をお願いしたい。	【両校共通】 ・非常勤講師の配置 ・日本人英語教師の配置 ・中学生を対象とした英検検定料の一人年1回全額助成 ・キャリア教育、自然体験学習及び地域人材等の活用 ・TT授業や乗り入れ授業等による個別指導の徹底 ・英語科の授業におけるTT授業

	③ 教育環境の支援	<p>校務を情報化することにより、業務の軽減と効率化及び教育活動の質の改善を図るため、統合型校務支援システム*の導入・活用を推進します。</p> <p>統合型校務支援ソフトの導入・整備により業務改善を図ることで、教師が児童生徒と向き合う時間の確保に努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統合型校務支援システムの活用促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統合型校務支援システムの活用による要録の電子化</li> <li>・グループウェアの活用による文書事務の簡素化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要録の電子化、グループウェアの活用により、業務の削減がされている。</li> </ul>	A			<ul style="list-style-type: none"> <li>・統合型校務支援システムの活用促進</li> </ul>
	④ 名護市立教育研究所運営	<p>長期教育研究員の授業改善に係る研究を関係機関との連携・協力のもと実施し、研究成果を市内小中学校に波及するよう取り組みます。教育相談室は児童生徒・保護者・教員の教育上の問題等について相談に応じ、関係機関と連携し、援助などの充実を図ります。</p> <p>適応指導教室は個々の児童生徒に適切な体験活動や学習活動の提供及び保護者・原籍校・関係機関との連携を充実させます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究員の募集</li> <li>・研究員研修</li> <li>・適応指導教室における体験活動の実施</li> <li>・学校復帰に向けた原籍校とのケース会議・学級担任との連携</li> <li>・進路実現に向けた相談・学習支援</li> <li>・教育相談室における教育相談への対応</li> </ul>	<p>【長期教育研究員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究員の募集（2人）</li> <li>・市研究指定グループ研（保幼小連携）に参加</li> <li>・研究員研修（学校教育課主催の現職教員研修等）に参加</li> </ul> <p>【適応指導教室】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験活動の実施（植物栽培体験、スポーツ交流会、渡嘉敷島自然体験等）</li> <li>・登校復帰に向けた原籍校とのケース会議、学級担任との連携（学校復帰1人）</li> <li>・進路実現に向けた相談・学習支援（中学校3年生3人が県立高校進学）</li> </ul> <p>【教育相談室】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談への対応</li> <li>不登校等： 204件</li> <li>いじめ： 30件</li> <li>いじめ除く友人関係： 29件</li> <li>教職員との関係： 49件</li> <li>学業・進路： 66件</li> <li>家庭に関する： 34件</li> <li>・学校計画訪問への対応</li> <li>小： 13校</li> <li>中： 8校</li> </ul>	<p>【長期教育研究員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究員2名が同一テーマで取り組むことにより、円滑な幼小接続について研究を深めることができた。</li> <li>・研究成果を市保幼小合同研修会や地区学校SD委員会実践報告会で発表し、研究成果の波及に努めた。</li> </ul> <p>【適応指導教室】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団適応支援や体験活動、個別学習支援を通して、集団適応への不安解消や学習意欲の向上が見られた。また、対象児童生徒の心の居場所としての機能を構築できた。課題は、進路を見据えた学習評価の在り方である。</li> <li>・不登校児童生徒の増加に伴い本入級児童生徒数も15名と増加し、個々の状況に応じた丁寧な関りに苦慮した。</li> </ul> <p>【教育相談室】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来所相談、電話・SNS相談、訪問相談等による延べ380件の相談を実施。各種研修会や学校計画訪問等において教育相談室の事業を周知することにより、不登校等について学校からの相談が増え、早期対応ができた。</li> </ul>	A			<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究員の募集</li> <li>・研究員研修</li> <li>・適応指導教室における体験活動の実施</li> <li>・学校復帰に向けた原籍校とのケース会議・関係機関との連携</li> <li>・進路実現に向けた相談・学習支援</li> <li>・教育相談室における教育相談への対応</li> </ul>
	⑤ 「子ども夢基金」の活用	<p>未来を担う子どもたちの夢の実現と健やかな成長に資するため、「子ども夢基金」を活用し、各種事業を実施します。</p>	<p>以下の事業の実施に要する費用に対し基金を活用し実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名護市児童生徒の県外派遣等に関する補助金交付事業（予算16,511千円）必要に応じて補正対応</li> <li>・昔の森遊びを生かした森林体験プログラム事業（予算298千円）</li> <li>・スポーツ団体等指導者講習会（予算300千円）</li> <li>・名護市給付型奨学金給付事業（予算6,360千円）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名護市児童生徒の県外派遣等に関する補助金交付事業（決算18,443千円）</li> <li>・昔の森遊びを生かした森林体験プログラム事業（決算298千円）</li> <li>・スポーツ団体等指導者講習会（決算0千円）</li> <li>・名護市給付型奨学金給付事業（決算6,360千円）</li> </ul>	<p>各種事業実施に必要な費用に対し、子ども夢基金を活用し、実施することができた。スポーツ団体等指導者講習会については実績による減の分を不用にしている。</p> <p>具体的事業内容については個別に検証。</p>	A			<p>以下の事業の実施に要する費用に対し基金を活用し実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名護市児童生徒の県外派遣等に関する補助金交付事業（予算16,511千円）必要に応じて補正対応</li> <li>・昔の森遊びを生かした森林体験プログラム事業（予算298千円）</li> <li>・スポーツ団体等指導者講習会（予算300千円）</li> <li>・名護市給付型奨学金給付事業（予算6,960千円）</li> </ul>
	⑥ 給付型奨学金の実施	<p>意欲と能力がある若者が経済的理由により、高等教育機関への進学を断念することなく、平等に教育を受ける機会を支援し、名護市への郷土愛と生まれ育った地域へ貢献する心を醸成するとともに、特に、成績が優秀であり高等教育機関へ進学後、更に勉学に専念できる環境を整え、優秀な人材を育成することを目的として、名護市給付型</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の周知（北部地区高等学校へ郵送、HP掲載：6月、広報：6・7月）</li> <li>・奨学金給付希望者募集（6月～7月）</li> <li>・審査会の実施（8月）</li> <li>・奨学生の内定（9月）</li> <li>・諸手続き（内定～3月）</li> <li>・奨学生の決定（翌年度4月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の周知（北部地区高等学校へ郵送、HP掲載：5月、広報：6・7月）</li> <li>・奨学金給付希望者募集（6月～7月）</li> <li>・審査会の実施（8月）</li> <li>・奨学生の内定（9月）</li> <li>・諸手続き（内定～3月）</li> <li>・奨学生の決定（翌年度4月）</li> </ul>	<p>周知、募集については計画的に実施することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度給付開始（審査は6年度に行う）の奨学生募集には、当初2名の申込みがあり、審査会を経て全員を内定者としたが、1名から他制度の給付型奨学金受給を理由</li> </ul>	B			<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の周知（北部地区高等学校へ郵送、HP掲載：6月、広報：6・7月）</li> <li>・奨学金給付希望者募集（6月～7月）</li> <li>・審査会の実施（9月）</li> <li>・奨学生の内定（10月）</li> <li>・諸手続き（内定～3月）</li> <li>・奨学生の決定（翌年度4</li> </ul>

		奨学金給付事業を実施します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度奨学生4名、</li> <li>令和4年度奨学生4名、</li> <li>令和5年度奨学生2名</li> <li>令和6年度奨学生2名へ</li> </ul> 毎月(25日)給付	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度奨学生4名、</li> <li>令和4年度奨学生4名、</li> <li>令和5年度奨学生2名、</li> <li>令和6年度奨学生2名へ</li> </ul> 毎月(25日)給付	とする辞退があった。追加募集を行ったところ3名の応募があり3名全員内定者とした。当初と追加合わせて内定者は4名となった。  令和3年度、令和4年度、令和5年度奨学生に対する給付は計画通り行った。			月) <ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度奨学生4名、</li> <li>令和4年度奨学生4名、</li> <li>令和5年度奨学生2名</li> <li>令和6年度奨学生2名</li> <li>令和7年度奨学生4名へ</li> </ul> 毎月(25日)給付 ・周知方法(名護市HP、名護市公式SNSへ情報掲載)	
		令和6年度 目標値 給付型奨学金給付人数 【5人】	令和6年度 目標値 新規貸与決定者数 【5人】	令和6年度 実績値 新規貸与決定者数 【2人】	周知方法についてはシンガク図鑑などの情報誌等にも掲載し、幅広く周知を行った。 今後も同様の取り組みを継続して行う必要がある。			令和7年度 目標値 新規貸与決定者数 【5人】	
	⑦児童生徒等の県外派遣費の一部補助	名護市に所在する小学校及び中学校の児童生徒等並びに名護市に所在する県立高等学校及び高等専門学校の生徒又は名護市に住所を有する児童生徒が、運動競技会又は文化関係大会に参加するため、県外又は県内の離島に派遣される場合に大会派遣費の一部を補助します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内小中学校保護者への周知</li> <li>市内小中学校及び北部地区高等学校等への周知</li> <li>市ホームページ、市民のひろばでの周知</li> <li>要件を満たした全ての申請に対して補助金の交付</li> <li>一括交付金の活用</li> <li>一括交付金事業に対する保護者アンケートの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全保護者への周知(4月)</li> <li>市内小中学校及び北部地区高等学校等への周知(4月)</li> <li>補助金の交付(4月～3月)</li> </ul> 令和6年度実績 211件 (令和5年度:236件) ・一括交付金の活用 令和6年度実績 66件 (令和5年度:56件) ・保護者アンケートの実施	年度初めに学校を通して県外派遣申請に係るチラシを配布し、保護者へ周知を図った。  保護者アンケートの結果から、本補助金が児童生徒の成長(人材育成)につながるものとして有意義であると回答を得られている。	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>市内小中学校保護者への周知</li> <li>市内小中学校及び北部地区高等学校等への周知</li> <li>市ホームページ、市民のひろばでの周知</li> <li>要件を満たした全ての申請に対して補助金の交付</li> <li>一括交付金の活用</li> <li>一括交付金事業に対する保護者アンケートの実施</li> </ul>	
		令和6年度 目標値 大会派遣費補助交付決定 【100%】	令和6年度 目標値 大会派遣費補助交付決定 【100%】	令和6年度 実績値 大会派遣費補助交付決定 【100%】				令和7年度 目標値 大会派遣費補助交付決定 【100%】	
総合評価							A	A	

具体的施策名	I-2-(3) 学校給食の充実
主管課	(教)総務課

現状・課題	平成30年9月から実施している名護市学校給食事業について、子育て世帯の経済的負担軽減を図るため、継続的に実施する必要があります。新学校給食センターの建設については、現在建設計画中である第一学校給食センターの早期運用開始が求められているところですが、建設予定地の地盤の一部が軟弱であることが判明し、建設地を再検討する必要があるため、スケジュールに大幅な遅れが生じています。地産地消については、名護市産の食材のまとまった量を確保することが容易でないことや、他市や県内外の食材と比較すると割高であることから、使用率が目標値を下回っている状況にあります。
-------	---

		P (計画)	D (実施)	C (検証・評価)		A (改善)			
		当該年度事業計画	取組内容	検証	自己評価	内部評価 (意見)	外部評価 (意見)	次年度事業計画	
主な取組	① 学校給食事業 名護市	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼児・児童生徒の食に関する正しい理解と望ましい食習慣を養うとともに、子育て世帯の経済的負担を軽減し、安心して子育てができるよう、学校給食の無償化を引き続き行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月補助金請求</li> <li>5月補助金受取</li> <li>5月～3月 各月の補助対象食材購入費支出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月より補助金関請求に関する手続きを行い、滞りなく事業を執行した。</li> </ul>	対象となる園児、児童、生徒の学校給食の無償化を実施できた。	A	【③について】 ・市内農業者との交換会の回数を増やし、地産地消の充実を図ってほしい。	【①について】 ・物価高騰の中、給食費無償化を維持することは、すごいことだと思う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月補助金請求</li> <li>5月補助金受取</li> <li>5月～3月 各月の補助対象食材購入費支出</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>名護市立学校給食施設再整備基本計画(平成21年3月策定)に基づき、老朽化が課題になっている学校給食施設(5か所)を2か所に再編し、子どもたちにより安全・安心な学校給食の提供を行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>名護第一学校給食センター整備完了</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>名護第一学校給食センター建設工事について、設計変更が生じたため一時中断し、令和7年度へ繰越となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>名護第一学校給食センター建設工事について、設計変更が生じたため一時中断し、令和7年度へ繰越となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>名護第一学校給食センター建設工事について、設計変更が生じたため一時中断し、令和7年度へ繰越となった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>地産地消に関して、どの素材が良いのか、名護市の希望を出してはどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物価高の影響は、学校給食の無償化のおかげで柔軟に対応できている。</li> </ul>
		令和6年度 目標値 学校給食施設の再整備 【1施設】	令和6年度 目標値 学校給食施設の再整備 【1施設】	令和6年度 実績値 学校給食施設の再整備 【0施設】 建設工事 進捗率約30%			<ul style="list-style-type: none"> <li>何を作っているのかも大事ですが、何が作れるのか、何があれば助かるのか等を考えてみるのも良いかと思う。</li> </ul>	【④について】 ・学校給食施設の再編計画に伴い、アレルギー対応の取組やアレルギーに伴う弁当持参家庭への支援制度の取組等が特筆される。	令和7年度 目標値 学校給食施設の再整備 【1施設】
	③ 学校給食における安全な食材の使用 及び地産地消の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全な学校給食物資の納入が行われるよう、学校給食センターに給食物資を納入する者の登録制度を引き続き実施します。また、栄養士、栄養教諭を中心に学校全体で食育に取り組むとともに、関係機関と連携を図りながら、農産物をはじめとした地元の食材を学校給食に積極的に活用します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校給食納入業者登録制度運用</li> <li>毎月の献立表による情報提供(食育、伝統や行事を含む郷土料理、名護市産食材の表記)</li> <li>地元企業との連携</li> <li>農業者との意見交換会実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校給食納入業者登録状況(登録業者33業者&lt;内名護市内業者:17業者&gt;)</li> <li>毎月の献立表による情報提供(食育、伝統や行事を含む郷土料理、名護市産食材の表記)</li> <li>各給食センターに配置された栄養士による食育に関する授業の支援を実施</li> <li>地元企業からの寄贈(カーブチー)により、名護市産の食材を使用した献立の提供を実施</li> <li>市内農業者との意見交換会実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物価高騰の影響が大きく、名護市産以外の比較的安価な食材の購入が増加したことにより、名護市産食材の使用量が減少した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡単ではないかもしれませんが、近年では、学校給食で使う食材の一部を屋内で作ることができると思うので、安心安全の食材になると思う。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>学校給食納入業者登録制度運用</li> <li>毎月の献立表による情報提供(食育、伝統や行事を含む郷土料理、名護市産食材の表記)</li> <li>市内農業者との意見交換会実施</li> </ul>
		令和6年度 目標値 地元食材の使用率 【25%】	令和6年度 目標値 地元食材の使用率 【25%】	令和6年度 実績値 地元食材の使用率 【14.2%】				<ul style="list-style-type: none"> <li>食の安心安全に向けた配慮及び食材の量と質の供給バランスは難しいものがあると思うが、名護市における学校給食納入業者登録者数をもっと増やすことはできないか検討する必要がある。</li> </ul>	
	④ 新しい学校給食施設における時代の即した学校給食の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい学校給食施設においてアレルギー対応の対象食材、除去食調理体制の検討と調理及び配送の民間委託の検討を行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>除去食対応へ向けた、各学校・給食センターの実施体制及び弁当持参者への支援策検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>名護市学校給食弁当代替対応支援事業補助金交付要綱策定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食物アレルギーにより弁当持参を余儀なくされている児童生徒の保護者に対し補助金を交付する支援制度を策定し令和7年度より実施することとなった。</li> <li>名護第一学校給食センター建設工事の工期延長により、アレルギー対応が可能な施設の建設は令和7年度へ繰越となった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元食材使用率(14,2%)を上げることはできないか検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内農業者との意見交換会は、継続して実施し、相互理解を図ってほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アレルギー対応の除去食調理可能な施設の完成</li> <li>新学校給食センターにおける調理及び配送の民間委託実施方針の決定</li> </ul>
		令和6年度 目標値 アレルギー対応の除去食調理可能な施設 【1施設】	令和6年度 目標値 アレルギー対応の除去食調理可能な施設 【1施設】	令和6年度 実績値 アレルギー対応の除去食調理可能な施設 【0施設】 建設工事 進捗率約30%				<ul style="list-style-type: none"> <li>【④について】 ・食物アレルギー対応除去食の提供は、医療機関でのアレルギー検査や学校、給食センターや保護者との事前確認が必要になってくると思う。また、緊急時の対応(エピペン等の使用)についても、研修会をとおして確認していくことも重要かと思うので、継続した丁寧な取組をお願いしたい。</li> </ul>	
	総合評価						B	A	

具体的施策名	Ⅱ-1-(1) 文化財の保存及び普及・活用	現状・課題	本市には多くの指定文化財(84件)や埋蔵文化財(86か所)が所在しています。(令和2年4月1日現在)自然や歴史・文化などの各地域に残る文化財を保存するとともに、教育活動や地域づくりでの文化財の活用に向け、周知を図ります。 また、開発等に伴う文化財調査の実施体制強化及び出土遺物等の保存・活用の検討が必要です。
主管課	文化課		

		P(計画)	D(実施)	C(検証・評価)		A(改善)		
		当該年度事業計画	取組内容	検証	自己評価	内部評価(意見)	外部評価(意見)	次年度事業計画
主な取組	①天然記念物「名護のひんぷんガジュマル」の保全	<p>倒木対策として平成22年度から23年度にかけ実施したフレーム支柱の設置や平成24年度の土壌改良により、ひんぷんガジュマルの生育状況は安定しており短期的対策は成果を挙げています。今後は、長期的対策として、ひんぷんガジュマルの生育環境の抜本的な改善を行うための保全管理の検討を進めます。</p> <p>令和6年度 目標値 ひんぷんガジュマルの長期的な保全管理対策 【着手】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期観察(月1回以上)</li> <li>・根鉢内の草刈り等</li> <li>・伸長及び垂下枝、枯死枝等道路交通に影響を与える枝の剪定</li> </ul> <p>令和6年度 実績値 ・定期観察 12回 ・除草作業等 6回 ・軽微な剪定 2回</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な管理として、根鉢内の草刈り作業を状況に応じて実施。</li> <li>・定期的な観察の実施。</li> <li>・バスの運行等、道路交通に支障のある垂下枝及び気根の剪定。</li> </ul> <p>令和6年度 実績値 ・定期観察 12回 ・除草作業等 3回 ・軽微な剪定 3回</p>	A	<p>【①・②について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名護のシンボルとして戦前戦後を生き抜いてきた「ひんぷんガジュマル」、戦禍を逃れ沖縄に唯一残る木造建築泡盛工場の「津嘉山酒造所」について、保全管理には並々ならぬ苦労があると思うが、幾代までもあり続けることを願う。</li> </ul> <p>【④について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊年祭のデータ保存を各区に周知し、伝統の継承、復活に役立ててもらいたい。</li> </ul>	<p>【全体について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財の調査・保全・公開に向けた活動を引き続きお願いしたい。</li> <li>・活動量も多く、取組が十分できていると評価する。</li> <li>・文化財の保存及び普及・活用については、おおむね達成されている。</li> </ul> <p>【②について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「津嘉山酒造所施設」の保存修理事業を着実にやり、公開活用に資することを期待する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期観察(月1回以上)</li> <li>・根鉢内の草刈り等</li> <li>・伸長及び垂下枝、枯死枝等道路交通に影響を与える枝の剪定</li> </ul> <p>令和7年度 目標値 ・定期観察 12回 ・除草作業等 5回 ・軽微な剪定 3回</p>
	②重要文化財「津嘉山酒造所施設」公開活用推進事業の実施	<p>平成23年度から29年度にかけて、国指定重要文化財「津嘉山酒造所施設」の保存修理事業を完了しました。同施設は、沖縄に唯一残る戦前の木造泡盛工場であり、沖縄を代表する文化施設です。まちなか観光の拠点施設として、便益施設や泡盛文化のガイダンス施設、駐車場等の整備を行い、公開・活用を図ります。</p> <p>令和6年度 目標値 重要文化財「津嘉山酒造所施設」公開活用事業の実施 【完了】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開活用事業については実施困難と判断したことから、施設整備等の事業は行わないが、引き続き施設点検や草刈り作業を実施するなど、公開・活用に資する。</li> <li>・白蟻被害の状況確認及び保存修理事業にむけた関係機関との調整。</li> </ul> <p>—</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年8月の台風により翹屋外壁に漆喰剥落の被害があったため、ベニヤ版貼付けにて応急処置を実施。</li> <li>・翹屋漆喰剥落箇所には白蟻被害が確認されたことから、令和5年度より継続して駆除を実施。</li> <li>・新たな白蟻被害(蟻道の有無)を把握するため、定期的な清掃作業を実施。</li> <li>・修理設計・施工管理を担う(公財)文化財建造物保存技術協会の技師を招聘し、被害状況について調査を実施。その後、文化庁の建造物担当調査官も招聘し、被害状況確認と今後の保存修理に向けた対応・スケジュール等を検討。</li> <li>・雨天時における雨漏りの有無点検の実施。</li> <li>・庭園の除草作業等。</li> </ul> <p>—</p>	<p>台風により漆喰が剥落したことで、中の木材に白蟻被害があることが確認された。現在、所有者負担にて白蟻駆除を実施中である。</p> <p>白蟻の被害状況調査の結果、被害は翹屋全体のほか、母屋の一部にも広がっていることが確認されたことから、これ以上広がらないよう薬剤による駆除を継続しつつ、定期的に清掃作業を行い新たな蟻道が形成されていないかを確認していくこととしている。</p> <p>より詳細な被害状況調査を実施する必要があり、その結果を踏まえて文化庁及び修理を実施する(公財)文化財建造物保存技術協会との調整を図り、今後の修理事業の方針や事業スケジュールについて検討していく。</p>	A	<p>【⑤・⑥について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出前授業等教育普及活動の充実がうかがえる。学校現場とのさらなる連携充実に期待する。</li> <li>・展示会の期日、場所等は、どう決めているのか。時期によっては来場者数に関わってくると思う。</li> </ul>	<p>令和7年度 目標値 ・白蟻蟻道清掃 3回 ・庭園の除草作業等 3回</p>
	③埋蔵文化財の保存	<p>市内には約85か所の埋蔵文化財が所在しますが、その多くが表面踏査による確認が主であったため、遺跡の範囲と年代などの性格を把握する試掘調査や発掘調査を実施します。また、出土遺物や調査図面等の整理作業を行い、保存・活用に努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅建築等の開発行為に伴う埋蔵文化財の有無照会に対する確認・調整及び回答。</li> <li>・必要に応じた埋蔵文化財の確認調査(立会・試掘調査を含む)の実施。</li> <li>・キャンプ・シュワブ内における文化財調査の実施。</li> <li>・安和与那川原遺跡における記録保存調査の実施。</li> <li>・思原遺跡における記録保存調査の実施。</li> <li>・大浦崎収容所跡発掘調査に係る資料整理作業の実施。</li> <li>・嘉陽上グスク発掘調査に係る資料整理作業の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・埋蔵文化財の有無照会に対する対応(公共・民間含め546件)</li> <li>・埋蔵文化財確認調査53件 内訳:①立会調査19件 ②試掘調査13件 ③現場確認21件</li> <li>・キャンプ・シュワブ内における埋蔵文化財確認調査12件 内訳:①立会調査10件 ③踏査2件</li> <li>・安和与那川原遺跡の記録保存調査を実施。</li> <li>・思原遺跡の記録保存調査を実施。</li> <li>・大浦崎収容所跡及び嘉陽上グスクの発掘調査にて得られた</li> </ul>	<p>近年、開発行為等に伴う埋蔵文化財の有無照会の件数が非常に多い状況が続いているが、令和6年度は過去10年で2番目に多く、令和元年度以降では最多の件数であった。照会地が、周知の埋蔵文化財包蔵地の予想範囲内に位置するのか、隣接地における過去の照会や確認調査の実績を確認しながら回答を行うとともに、必要に応じて立会調査や試掘調査を実施した。</p> <p>また、名護市農水産物供給強化拠点施設整備事業に伴う安和与那川原遺跡の記録保存調査を実施。調査区の端で遺</p>	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅建築等の開発行為に伴う埋蔵文化財の有無照会に対する確認・調整及び回答。</li> <li>・必要に応じた埋蔵文化財の確認調査(立会・試掘調査を含む)の実施。</li> <li>・キャンプ・シュワブ内における文化財調査の実施。</li> <li>・安和与那川原遺跡における記録保存調査及び資料整理作業の実施。</li> <li>・大浦崎収容所跡発掘調査に係る資料整理作業の実施。</li> </ul>

			資料について、報告書刊行に向けた整理作業を実施。	構が検出されたことから、範囲を広げて追加調査が必要となっており、令和7年度に改めて調査を実施することで事業担当課と調整中である。 思原遺跡の記録保存調査は、令和6～7年度で実施する予定となっている。調査区が海浜部と丘陵部に分かれており、令和6年度は海浜部から着手した。			
④ 豊年祭の支援	文化課では、市内各地の豊年祭の様子を映像記録等で残しています。過去の豊年祭の映像記録も多数保管されていますが、古くなり傷んでしまったり、現在の機器では利用できないものもあるため、現在、それらのデジタル化作業を進めています。今後は、これらの映像資料を市民へ公開し、地域の伝統文化の継承に生かします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊年祭等の継続的な記録調査の実施。</li> <li>・市民、地域のニーズに応じた映像資料等の貸し出し。</li> <li>・博物館が運用するWeb版「名護やんばる大百科」での公開に向けた取り組みの実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村踊り調査映像記録の実施（安和・饒平名・大浦）</li> <li>・映像資料等の貸出については令和6年度は要望が無く実績なし。</li> <li>・「名護やんばる大百科」での公開に向けた取り組みの実施。</li> </ul>	<p>昭和54年度から実施している映像記録調査は、近年は3か所の豊年祭を記録しており、令和6年度は外部委託にて安和・饒平名区、文化課職員にて大浦区の映像撮影記録を行った。</p> <p>「大百科」での公開については、編集作業も必要となることから、引き続き博物館や各区と調整しながら、逐次公開につなげていきたい。</p>	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊年祭等の継続的な記録調査の実施。</li> <li>・市民、地域のニーズに応じた映像資料等の貸し出し。</li> <li>・博物館が運用するWeb版「名護やんばる大百科」での公開に向けた取り組みの実施。</li> </ul>
⑤ 文化財の周知及び普及・活用の促進	現在、市内には国・県・市指定の文化財が合わせて85件あります（令和元年12月末現在）。区別にみると、指定文化財が所在する区が30区、所在しない区が25区となっています。「すべての区に指定文化財を！」を目標に、各区に残る貴重な文化財を後世に残し、伝えていくために文化財指定し、周知及び普及・活用を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定文化財の適切な管理と保護処置。</li> <li>・文化財指定に向けた調査の実施。</li> <li>・地域めぐりや学校における教育普及活動の実施と学校支援係との連携。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「安和の石橋」保存記録調査</li> <li>・「名護市嘉陽層の褶曲」底仁屋褶曲除草作業</li> <li>・「底仁屋の御神松」枯れ枝剪定及び支柱取替</li> <li>・「宮里前の御嶽のハスノハギリ林」倒木除去</li> <li>・「屋部の久護家」屋根瓦応急処置</li> <li>・「改決羽地川碑記」「屋我のコバテイシ並木」説明板修復</li> <li>・「屋我地小学校のアコウ」指定解除手続き</li> <li>・出前授業等教育普及活動の実施（18回）</li> </ul>	<p>指定文化財の所有者及び管理者（個人や各区）と調整を図り、保護処置等の支援に努めた。</p> <p>市指定天然記念物「屋我地小学校のアコウ」については、南根腐病により樹勢が衰え、専門家により回復の見込みがないと判断されたことから、指定解除の手続きを行った。伐採・伐根し焼却処分する必要があることから、教育施設課の予算にて令和7年度に実施することで調整中である。</p> <p>教育普及活動については、市内外からの要請に応じて児童生徒・一般向けに、博物館とも連携しながら地域学習を実施した。今後も博物館と連携・協力し各方面からのニーズに対応していく。</p>	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定文化財の適切な管理と保護処置。</li> <li>・文化財指定に向けた調査の実施。</li> <li>・地域めぐりや学校における教育普及活動の実施と博物館及び学校教育課との連携。</li> </ul>
	令和6年度 目標値 指定文化財の件数 【90件】	令和6年度 目標値 指定文化財の件数 【87件】	令和6年度 実績値 指定文化財の件数 【85件】				令和7年度 目標値 指定文化財の件数 【86件】
	指定文化財が所在する区 【32区】	指定文化財が所在する区 【31区】	指定文化財が所在する区 【30区】				指定文化財が所在する区 【30区】
⑥ 考古資料を活用した出前事業の実施	市内には、約85か所の埋蔵文化財（遺跡）が確認されており、本市の歴史や文化を紹介するため、市民を対象とした講演会や見学会を実施してきました。また、発掘調査により得られた資料（遺物）の整理を行い、公開に努め、今後も学校現場で出前授業を実施するなど、教育普及活動を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考古資料を活用した教育普及活動の実施。</li> <li>・講演会や展示会の開催。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示会①「土のグスクに関する出張企画展」を大宜味村役場にて開催（6月21日～6月28日）</li> <li>・展示会②「貝塚時代の名護～海と山の恵みがもたらした生活～」を名護博物館にて開催（1月21日～2月22日）</li> <li>・展示会③「名護市の遺跡展」を中央図書館にて開催（3月21日～4月6日）</li> <li>・講演会「動物の骨からわかる名護・沖縄の歴史」開催（2月1日）</li> <li>・小中学生向けにガラス玉作り体験講座実施（8月21日）</li> <li>・出前授業の実施3回 稲田小・東江小・羽地小</li> </ul>	<p>展示会①：入場者未集計 展示会②：入場者約3,000名 展示会③：入場者約7,000名（来館者数）</p> <p>講演会：45名参加 体験講座：16名参加</p> <p>各取組みについては、どれも概ね好評を得ていることから、令和7年度以降も市民の文化活動に資するような取組みを続けていきたい。</p> <p>中央図書館での展示会については、会期終了後も図書館からの要望により引き続き常時展示を行っている。</p>	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>・考古資料を活用した教育普及活動の実施。</li> <li>・講演会や展示会の開催。</li> </ul>
	令和6年度 目標値 考古資料を活用した出前授業	令和6年度 目標値 考古資料を活用した出前授業	令和6年度 実績値 考古資料を活用した出前授業				令和7年度 目標値 考古資料を活用した出前授業

		【5回】	の実施 【5回】	の実施 【3回】					業の実施 【5回】
							総合評価	B	A

具体的施策名	Ⅱ-1-(2) 市民の市史づくり
主管課	博物館

P (計画)

現状・課題	市史は、本編・資料編等、これまでに19巻中14巻が刊行されています。また、毎年「市史セミナー」や北部の高校生を対象とした「高校生とともに考えるやんばるの沖縄戦（戦跡めぐり）」の実施、字誌刊行の支援など、市史の普及活動にも取り組んでいます。歴史的価値のある公文書について、収集・整理・保管を行っています。歴史的文書の重要性及びその取扱いについて、庁内へのさらなる周知強化が求められています。市史編さん事業は、令和4年度までに全巻を刊行する予定です。市史刊行終了後の資料（市史編さん資料及び歴史的な文書資料）の管理と活用について、検討していく必要があります。
-------	---

D (実施)

C (検証・評価)

A (改善)

		当該年度事業計画	取組内容	検証	自己評価	内部評価（意見）	外部評価（意見）	次年度事業計画	
主 な 取 組	①市史の刊行	本市の歴史を編さんする事業で、「名護市史刊行計画」に沿って、自然と人編（第2部）、通史編、戦後生活史編、市制50周年記念写真集、史資料叢書の刊行と、名護やんばる大百科事典のWeb公開を実施します。  令和6年度 目標値 名護市史の刊行 (本編・別巻・資料編計19巻) 【19巻】	「名護やんばる大百科事典 Web版」データベースの充実のため情報の更新継続実施  —	・名護やんばる大百科のデータベースに令和6年度は226件の画像の更新や解説追加を中心に追加登録を実施。  —	・令和6年度までに1,396件の情報をデータベースに登録した。今後も名護やんばるの総合的なデータベースとして充実させていく。  —	A	【②について】 ・平和学習は、写真があるとよりイメージがしやすい。  ・県外の方には、特に冊子があると良いと思う。  ・戦後80年が経過し、戦争体験者による語り部も高齢化により減少する中で、学校現場における平和学習は厳しい状況にあるので、より平和学習で活用できる人材育成及び教材作り及び広報活動が重要になると思われる。  ・学校現場との連携が深まっていると感じている。これからも継続と充実に努めるよう期待する。	【全体について】 ・取組は、おおむね計画どおりできているので、児童生徒を巻き込んだ活動になると良いと思う。  【②について】 ・民話紙芝居の図書館貸出もされているので、子どもが親しみやすいと思う。  ・民話紙芝居がスマホやタブレットで見ることができると良いと思った。  ・平和学習資料を作成し、各学校図書館に配置・活用を図っていることは、良い取組である。	「名護やんばる大百科事典 Web版」データベースの充実のため情報の更新継続実施
	②教育普及活動の推進	平和学習の実施や市史セミナーの開催、字誌づくりの支援、民話等の紙芝居の制作など、市史編さん事業の成果を市民に広報・普及する事業を実施します。  令和6年度 目標値 平和学習（戦跡めぐり）の参加者 【90人】  市史セミナーの参加者 【70人】  民話等紙芝居の制作 【26組】	・小中学生の平和学習については、要望に応じ対応する ・平和学習用映像のビデオ撮影。名護小学校周辺以外の地域の映像を撮影する。 ・民話等紙芝居の製作  Ⅱ-1-(3) 「新博物館建設と博物館活動の充実」の講座の中に平和学習講座も集約していく  —	・小中学生の平和学習については学校教育課との連携のもと要望のある学校に対して実施した。 ・平和学習用映像は屋部地域を撮影予定であった。撮影場所の下見と撮影順序および内容の検討までは行ったが、大部分撮影が残っている。 ・民話等紙芝居については「蔡温の羽地大川改修物語」を制作。  令和6年度 実績値 —  —	・平和学習は学校教育課と連携し真喜屋小学校、久辺小学校、緑風学園、大宮小学校、名護小学校名護特別支援学校のほか、やんばる高等学校からも依頼を受け実施した。 ・平和学習用映像については撮影が進んでいない。撮影や編集を加速し、学校等への映像の貸出ができるようにしたい。 ・民話紙芝居の令和6年度の名護博物館における貸出は全体で82点。定期的に紙芝居は借りられている。今後はさらに利用しやすいように工夫する。  —	C	—	—	・小中学生の平和学習については、要望に応じ対応する ・民話等紙芝居の製作 ・平和学習ガイドブックの小中学校図書館への配布
	③歴史的な文書の収集・整理・保存	歴史的な文書の適切な収取・整理・保存に取り組み、市史編さん資料として活用します。  —	・移送した資料の整理および保管状況の改善を実施する。 ・デジタル化を継続して行う。  —	・旧源河小学校から移送した資料の処理を行った。 ・資料のデジタル化 資料保存箱5箱 約20,000ページ  民話紙芝居の制作 【24組】 「蔡温の羽地大川改修物語」	・資料の処理は折れ曲がった資料を熱処理しながら平面に戻す作業等、かなりの時間を要している。しかし次世代に残すための処理のため継続していきたい。 ・資料のデジタル化については継続して行う。  —	A	—	—	民話紙芝居の制作 【25組】
	総合評価						B	B	・移送した資料の整理を継続する。 ・デジタル化を継続して行う。



		学習支援活動実施数 (回) 【85回】	学習支援活動実施数 (回) 【85回】	学習支援活動実施数 (回) 【76回】	<p>ールドワークによる現存する戦争の跡をめぐる平和学習を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度は平和学習用ガイドブックの配布が最終年度となった。ガイドブック利用は、語り部や戦争体験者等が減少している中での平和学習の展開という点において一定の効果が見られているため今後の展開を考えていきたい。</li> <li>・SNS等を用いた情報発信について、イベント後のアンケートにおいてWEB媒体での情報により来館したことが一定数いたことから、さらにWEBを活用した情報発信、特に学校の児童・生徒に向けに特化した情報発信についても検討していきたい。</li> <li>・講座参加数は学習支援活動時の人数も含めた参加者数。</li> <li>・学習支援については学校単位や学年単位の回数となっているため目標に届いていない。クラスごとに案内人や講師をつけているため実際の職員動員回数のはべ150回を超えている。次年度以降計算方法等の検討を行いたい。</li> </ul>			学習支援活動実施数 (回) 【85回】
					総合評価		B	B

具体的施策名	Ⅱ-2-(1) 市民に開かれた利用しやすい図書館運営
主管課	中央図書館

P (計画)

現状・課題	平成 27 年 1 月より、市民より要望の多かった開館時間の延長と祝日開館を実施しています。 平成 30 年 3 月に策定された「名護市子どもの読書活動推進計画」において、ブックスタート*事業を図書館の取組の一つとしていますが、市民からの問い合わせも多く、早期に開始する必要があります。 子どもから大人まで、名護市や沖縄県など郷土についての調査研究をする市民の要望に応えるため、継続的に郷土資料の充実を図る必要があります。 また、図書館の施設、設備においては経年劣化や老朽化などが見られるため、計画的な修繕の実施等の適切な維持管理が必要です。
-------	--

D (実施)

C (検証・評価)

A (改善)

		当該年度事業計画	取組内容	検証	自己評価	内部評価 (意見)	外部評価 (意見)	次年度事業計画	
主 な 取 組	① レファレンスサービスの充実・実施	図書館の資料を用いて市民の調べもののサポートをするレファレンスサービス*の充実を図るため、資料の選定、購入及び郷土資料の購入を継続的に行います。また、レファレンス研修を行います。職員のスキルアップを図ります。	・参考図書、郷土資料の購入、郷土寄贈資料の受入 1000 冊 ・レファレンス対応件数 【内訳】 口頭対応 150 件 電話・メール対応 20 件 読書案内 2,830 件	・参考図書の受入数 48 冊 ・郷土資料の受入数 880 冊 (うち寄贈の受入数 548 冊)  ・レファレンス対応件数内訳 口頭対応 262 件 電話対応 9 件 読書案内 3,846 件	・調査研究で活用できる参考図書の継続的な収集に努めており、充実してきていると考える。しかし、社会の仕組みの変化や技術革新のスピードは速く、常に新しい情報に対応できるように努める必要がある。 郷土資料についても、積極的な収集に努めたい。  ・参考図書の充実に加え、全職員が協力してレファレンスに対応していることが目標値を上回る結果につながったと考える。	【全体について】 ・目標値は、おおむね達成できてきているが、これから充実したサービスを提供するためにもアンケート内容を検証してはどうか。  ・学校司書研修会への職員派遣や学校からの貸出依頼件数も多くなる等の取組の充実がうかがえる。	【全体について】 ・おおむねできていると評価する。図書館システムの更新により、例年よりも休館日が多かったことに対して、柔軟に対応する工夫があっても良かったと思う。  ・それぞれの項目とも、目標が達成されており、円滑な図書館運営がされている。	・参考図書、郷土資料の購入、郷土寄贈資料の受入 1000 冊 ・レファレンス研修の実施	
		令和 6 年度 目標値 レファレンス件数 【3,000 件】	令和 6 年度 目標値 レファレンス件数 【3,000 件】	令和 6 年度 実績値 レファレンス件数 【4,117 件】		A		令和 7 年度 目標値 レファレンス件数 【4,000 件】	
	② 学校司書との連携	学校司書研修会に参加し、学校図書館と連携を図るとともに、市内小中学校のベストリーダー*紹介を継続的に行えるようにします。また、学校司書と協同で作成した名護市推薦図書リストを見直し、改訂版を作成するとともに、授業に関連した図書の貸出を行います。	・市内小中学校図書館支援及び定期的な情報交換 ・子どもの読書活動推進計画連携期間の取り組みの充実	・毎月の学校司書研修会に職員を派遣。 ・名護市子どもの読書活動推進計画に「名護市推薦図書 100」を位置づけ、学校司書が小中学生向けの図書を選定。 ・保育園や幼稚園等の団体にも申請書の活用を奨励。 ・リサイクル本の譲渡会開催。 ・学校等からの貸出件数【内訳】 ・小中学校 1,255 冊 (98 件) ・保育園・特別支援学校 988 冊 (24 件) ・その他 160 冊 (3 件)	・目標値は達成できた。貸出件数も増加しており、継続的な学校司書研修会への職員派遣等による相談しやすい環境づくりができていていると考える。  ・「名護市推薦図書 100」の作成について、図書の選定や公表方法の検討など学校司書と連携して取り組むことができた。	A	【②について】 ・中央図書館職員と学校図書館司書の連携がうまくいっている様子がうかがえる。今後も相談しやすい環境づくりに努めてほしい。  【⑤について】 ・ブックスタート事業が目的に沿って工夫しながら継続的な取組がされている。広報の仕方もあらゆる手段を活用しており、参加人数の増加につながると思う。	【⑤について】 ・子どもと保護者との触れ合う機会を作るものなので、引き続き行っていただきたい。  【⑥について】 ・名護市民が集う場所でもあるので、施設・設備の維持管理を引き続きお願いしたい。  ・身障者用トイレの修繕は、早急に改善されることが望まれる。	・市内小中学校図書館支援及び定期的な情報交換 ・市内小中学校から授業に関連した図書等の貸出依頼への対応。 ・特別支援学校からの貸出依頼への対応
		令和 6 年度 目標値 学校からの貸出依頼件数 【100 件】	令和 6 年度 目標値 学校からの貸出依頼件数 【100 件】	令和 6 年度 実績値 学校からの貸出依頼件数 【125 件】		A		令和 7 年度 学校からの貸出依頼件数 【120 件】	
	③ ボランティアによるおはなし会の継続	乳幼児向けのおはなし会に加え、高齢者向けのおはなし会を開催します。また、ボランティアを対象とした読み聞かせスキルアップ講座等を開催します。	・ボランティアによるおはなし会の再開 ・ボランティア団体との連携及び相互連携を図る ・スキルアップ支援 ・適切なおはなし会の実施	おはなし会の開催内容 【内訳】 ・ボランティアによる開催 39 回 参加者 762 人 (子ども 470 人/大人 292 人) ・アメリカ情報コーナー関連 1 回 参加者 19 人 (子ども 17 人/大人 2 人)	・台風によるおはなし会の中止及び図書館システム更新休館のため予定よりも開催が少なかったこと、並びにアメリカ情報コーナープログラムの定例の英語のおはなし会が終了し、特別おはなし会のための 1 回の開催であったため、目標値を達成できなかった。  ・日本全国で民話の収集及び語りの活動をしている方を講師に招き、おはなしボランティア研修会を 11 月に開催した。今後も年に 1 回程度の研修会が開催できるように努めたい。	B	【⑥について】 ・施設設備の修繕については、スピード感を持って対応してほしい。	・ボランティアによるおはなし会の開催 ・ボランティア団体との連携及び相互連携を図る ・ボランティアのスキルアップ支援	
		令和 6 年度 目標値 おはなし会参加者数 【2,000 人】	令和 6 年度 目標値 おはなし会参加者数 【1,500 人】	令和 6 年度 実績値 おはなし会参加者数 【781 人】		B		令和 7 年度 目標値 おはなし会参加者数 【850 人】	
	講座やに考慮	一般向けの本の装備 (シール式ブックカバーのかけ方等) 講座や中高年層を対象とした音読講座を開催します。また、郷土に関する講座、講演会を開	・市民の要望に考慮した図書館主催イベントの開催 ・幅広い利用者層に応えられるイベントの開催	【開催数及び参加者人数内訳】 参加者人数総計 3,407 人 (子ども 1,323 人)	・幅広い利用者層の要望に応えられるイベント開催を目指し、全職員が協力して講演会や講師の情報収集し、事業に	A		・市民の要望に考慮した図書館主催イベントの開催 ・幅広い利用者層に応えられるイベントの開催	

	催します。		大人 2,084 人) ①おはなし会 45 回 (860 人) ②上映会 16 回 (644 人) ③ブックスタート 22 回 (子ども 402 人/大人 452 人) ④いきいき健康! 音読タイム 2 回(子ども 4 人/大人 20 人) ⑤羽地図書室おりがみ教室 3 回(子ども 25 人/大人 28 人) ⑥金融講座 1 回 (子ども 15 人/大人 12 人) ⑦子ども司書体験 1 回 5 人 ⑧司書体験(中高校生) 1 回 4 人 ⑨アメリカ情報コーナー 上映会・英語おはなし会 21 回 (子ども 146 人/大人 433 人) ⑩その他イベント 18 回	取り組んだことが目標値を超える結果につながった。				
	令和 6 年度 目標値 講座・講演会等の開催数 【80 回】	令和 6 年度 目標値 講座・講演会の開催数 【90 回】	令和 6 年度 実績値 講座・講演会等の開催数 【130 回】				令和 7 年度 目標値 講座・講演会の開催数 【130 回】	
⑤ ブックスタート事業の実施	赤ちゃんとその保護者が絵本を通してふれあいの時間を楽しめるよう、ブックスタート事業を開始します。	・ブックスタート用図書の購入。 ・ブックスタート事業の目的に沿って、開催方法を工夫し、多くの対象者の参加を目指す。 ・市立図書館の継続的な利用の推進と子育てに関する相談に寄り添える開催とする。	・ブックスタートバック(絵本と布絵本バック等)の購入  ・ブックスタート開催数 22 回 参加者 854 人 (子ども 402 人/大人 452 人)  ・情報の発信 (市民のひろば、館だより、HP への掲載、市公式 LINE、公式 X 等を活用)	・ボランティアの協力もあり、ブックスタートを羽地地区センターでの乳児検診時にも開催することができた。ブックスタートで配布している絵本バッグを手に図書館を利用する姿も多く見られ、今後も継続できるように、ボランティアの募集や育成にも努めたい。	A		・ブックスタート用図書の購入。 ・ブックスタート事業の目的に沿って、開催方法を工夫し、多くの対象者の参加を目指す。 ・市立図書館の継続的な利用の推進と子育てに関する相談に寄り添える開催とする。	令和 7 年度 目標値 ブックスタート参加組数 【400 組】
	令和 6 年度 目標値 ブックスタート参加組数 【300 組】	令和 6 年度 目標値 ブックスタート参加組数 【300 組】	令和 6 年度 実績値 ブックスタート参加組数 【381 組】				令和 7 年度 目標値 ブックスタート参加組数 【400 組】	
⑥ 施設・設備の維持管理	施設・設備の経年劣化や老朽化が見られるため、計画的な修繕の実施等の適切な維持管理を行います。	・地階男子身体障害者用トイレに関しては詳細な修繕箇所を確認を行う。  ・新たに発生した修繕箇所は早急な対応に努める。	・地階、1 階男子身体障害者用トイレに関しては修繕個所の見積もり依頼を行った。(未提出) ・煙感知器、扉の鍵等、早急に対応が必要な個所の修繕を行った。	・見積依頼を行ったが、本年度中の提出が間に合わなかった。再度業者へ見積提出を依頼する。 ・細かな修繕等へは早急に対応できた。	C		・令和 7 年度中に 1 階男子身体障害者トイレの修繕を行う。 ・新たに発生した軽微な修繕に関しては早急な対応を行う。	
総合評価						B	A	

具体的施策名	Ⅱ-2-(2) 全市域の市民へ公平なサービスの提供
主管課	中央図書館

現状・課題	移動図書館サービスは、がじまる号が保育園、学校、公民館等を定期的に巡回し、図書の貸出を行っており、好評を得ています。そのため、保育園から、新規の巡回希望があります。 羽地地区センター図書室の利用が減少傾向にあります。
-------	---

		P (計画)	D (実施)	C (検証・評価)		A (改善)			
		当該年度事業計画	取組内容	検証	自己評価	内部評価 (意見)	外部評価 (意見)	次年度事業計画	
主な取組	① 移動図書館サービスの充実	毎年、サービスポイント*の見直しを行い、移動図書館サービスを継続的に実施します。 また、魅力のある特集コーナー作りや、夏休み期間にサービスポイント未設置の公民館等への特別巡回を実施します。	・日常的に図書館を利用することが困難な地域のサービスポイントの設置。 ・各ステーション地域住民への周知及び充実したサービスの提供。	・日常的に図書館を利用することが困難な地域の学校、保育園 (所)、区、団地などで一定以上の人口が居住、または入院設備があり、一定以上の利用が見込まれる病院・施設等23ヶ所をサービスポイント (ステーション) とし、巡回を計画的に実施。 ・夏休み特別巡回として名護博物館、イオン名護店及び源河公民館で貸出を行った。	・目標値には届かなかったが、貸出は増加した。夏休み特別巡回を実施した名護博物館を新ステーションとし、令和7年度から毎月巡回を予定している。	B	【全体について】 ・スマホやタブレットを一人一台保有する時代になり、情報の入手がどこにいても可能な時代になっているが、情報を取捨選択する能力、想像する力や豊かな心を育むために、読書は欠かせない。これからも時代のニーズに即した図書館運営や活動をお願いしたい。  【②について】 ・周知の方法を工夫し、サービスの充実につなげてもらいたい。  ・貸出・巡回ステーション数の増加、利用促進に向けて取組の工夫改善に努めてほしい。	【全体について】 ・中央図書館等に向くことができない方もいるので、移動図書館サービス等は広い面積を持つ名護市では喜ばれる事業と思う。今後とも、お願いしたい。  ・中央図書館以外の場所で市民が本に触れる機会を増やすような工夫を期待する。  ・移動図書館や羽地地区センター図書館の充実については、おおむね達成されている。  ・移動図書館の取組については、市立図書館へ移動が困難な児童生徒やお年寄りにとっては、なくてはならないものであり、継続が望まれる。	・日常的に図書館を利用することが困難な地域のサービスポイントの設置。 ・各ステーション地域住民への周知及び充実したサービスの提供。
		令和6年度 目標値 がじまる号貸出件数 【50,000冊】	令和6年度 目標値 がじまる号貸出件数 【50,000冊】	令和6年度 実績値 がじまる号貸出件数 【31,938冊】	令和7年度 目標値 がじまる号貸出冊数 【35,000冊】				
		② 自治公民館、企業へのセット貸出の推進	毎年、セットの本の入れ替え及びセット貸出希望団体の募集を行い、継続的に実施できるよう努めます。	・職員が協力してセット本の作成を行い、さまざまなジャンルの本を用意。 1セット40冊 23セット作成  ・企業や事業所等に移動図書館担当職員が月1回巡回し、セットを交換している。	・セット貸出ステーションは7か所だが、通常の巡回ステーションでセット貸出を利用する団体が11か所に増えた。今後も、利用団体が増えるよう周知を図りたい。				A
	令和6年度 目標値 セット貸出ステーション数 【10か所】	令和6年度 目標値 セット貸出ステーション数 【10か所】	令和6年度 実績値 セット貸出ステーション数 【7か所】	令和7年度 目標値 セット貸出ステーション数 【8か所】					
	③ 羽地地区センター図書室の充実	継続的な資料の購入及び配架の見直しを行います。また、魅力のある特集コーナー作りをし、資料提供を行うとともに、利用促進につながるようなイベントを開催します。	・羽地図書室用資料の購入及び資料の入れ替え。 ・多彩なテーマと、地域の特性にあった特集コーナーの設置。 ・本館と連携した利用促進につながるイベントの共同開催。	・地域のニーズに沿った資料の購入 【受入件数 810件】  ・本館と連携したイベントの実施や羽地図書室担当職員によるおりがみ教室の実施。	・令和6年度は図書館システムの更新のために3週間の休館があり、来室者数及び貸出冊数ともに目標値に達しなかった。 ・おりがみ教室を3回開催し、好評だった。  ・羽地地区センターでのブックスタート事業が、羽地図書室へ足を運ぶきっかけとなるようにPRにも努めたい。	A	・羽地図書室用資料の購入及び資料の入れ替え。 ・多彩なテーマと、地域の特性にあった特集コーナーの設置。 ・本館と連携した利用促進につながるイベントの共同開催。		
	令和6年度 目標値 羽地図書室来室者数 【1,000人】	令和6年度 目標値 羽地図書室来室者数 【3,000人】	令和6年度 実績値 羽地図書室来室者数 【2,705人】	令和7年度 目標値 羽地図書室来室者数 【3,000人】					
	令和6年度 目標値 羽地図書室貸出件数 【8,000冊】	令和6年度 目標値 羽地図書室貸出冊数 【8,000冊】	令和6年度 実績値 羽地図書室貸出冊数 【7,649冊】	令和7年度 目標値 羽地図書室貸出冊数 【8,000冊】					
	総合評価						A	A	

具体的施策名	Ⅱ-3-(1) 芸術文化の振興
主管課	地域経済部 文化スポーツ振興課

現状・課題	芸術文化は、人々の生活に楽しさや癒し、感動など心に潤いとゆとりをもたらしてくれます。市民が身近に芸術文化に触れる機会をつくるため、「鑑賞型事業」「体験型事業」「育成型事業」等の幅広い分野の事業を展開し、潤いと活力あるまちづくり実現のため芸術文化活動の促進に努めています。また、アウトリーチ*事業として学校や福祉施設等へ出向き、優れた舞台芸術に直接触れる機会をつくり、豊かな感性を育むとともに芸術への関心度を高める環境づくりにも力を入れています。なお、自主文化事業開催後にアンケートを実施しており、要望・意見などを業務（事業）改善のための貴重なデータとして活用し、芸術文化の創造・発信に役立てています。
-------	--

		P (計画)	D (実施)	C (検証・評価)		A (改善)		
		当該年度事業計画	取組内容	検証	自己評価	内部評価 (意見)	外部評価 (意見)	次年度事業計画
主な取組	①地域の芸術文化を生かしたまちづくりの展開	<p>芸術文化の創造、交流、発信の拠点として市民会館の管理・運営の充実を図り、魅力ある文化施設の運用に努めます。また、市民が身近に芸術文化に触れる機会をつくるため、幅広い分野の芸術文化事業の企画、運営を行い、市民が多彩な芸術文化に触れ親しむことで、心豊かな活力あるまちづくりを目指します。</p> <p>(1)NHK 公開収録番組 (2)第 37 回市民音楽祭 (3)第 2 回てぶくろアート展 (4)宝くじまちの音楽会 (5)TSUNAGU MUSIC FES (6)第 49 回やんばる展 (7)こども一万人の個展 (8)公共ホール音楽活性化支援活性化事業 (9)公共ホール邦楽活性化事業 (10)地域の文化・芸術活動助成事業事業 (11)ソニー0 オからのクラシックコンサート (12)コミュニティ助成事業</p> <p>②次年度事業計画および予算確保 ③令和 7 年度事業申請 (1)地域の文化・芸術活動助成事業事業 (2)公共ホール現代ダンス活性化事業 (3)NHK 公開収録番組 (4)地域の伝統文化保存維持費用助成事業業</p>	<p>① (1)NHK 公開収録番組 (2)第 37 回市民音楽祭 (3)第 2 回てぶくろアート展 (4)宝くじまちの音楽会 (5)TSUNAGU MUSIC FES (6)第 49 回やんばる展 (7)こども一万人の個展 (8)公共ホール音楽活性化支援活性化事業 (9)公共ホール邦楽活性化事業 (10)地域の文化・芸術活動助成事業事業 (11)ソニー0 オからのクラシックコンサート (12)コミュニティ助成事業 (13)松永知史ソプラノコンサート (14)細坪基佳デビュー50 周年名護公演 (15)そけいととき作品演奏会 (16)浜&amp;中川アウトリーチコンサート</p> <p>②次年度事業計画および予算確保 ③令和 7 年度事業申請 (1)地域の文化・芸術活動助成事業事業 (2)公共ホール現代ダンス活性化事業 (3)NHK 公開収録番組</p>	<p>令和 6 年度においては、コロナ禍の影響から徐々に回復し、市民音楽祭や市内の幼稚園児が製作した手袋アート展など多彩な芸術文化事業を提供することができた。特に公共ホール邦楽活性化事業においては、文化をテーマにしたアクティビティ (アウトリーチ) を 4 か所 (野外) とコンサートを実施した。事業実施するにあたり、地域住民や関係団体との連携を図りながら、アーティストやコーディネーターとの事業調整、また野外ステージや音響、照明の設置など、職員一丸となって準備から本番まで事業に取り組んだ。音楽を通して市民に感動や心豊かになれる時間を共有することができた。 ・アンケート結果の分析による検証・改善等を行った。</p>	A	<p>【全体について】 ・市民が芸術文化を身近に感じ取ってもらうために「鑑賞型事業」、「体験型事業」、「育成型事業」を展開し、さらに、学校や福祉施設等へ出向き「アウトリーチ事業」によって、直接、舞台芸術に触れる機会を提供しており、素晴らしい。今後も情報の発信を工夫しながら継続的な取組をお願いしたい。</p> <p>・公演数も年々増えている状況があり、取組の充実がうかがえる。</p> <p>【③について】 ・外の世界と繋がるのが困難な方々にとって、このような取組があることは、意義があると思うので、ぜひ継続してもらいたい。</p>	<p>【全体について】 ・様々な芸術体験の機会を設けていただき、ありがとうございます。引き続きお願いしたい。</p> <p>・計画に対して、十分に取組が行えていると評価する。多くの市民が参加するような取組を期待する。</p> <p>・芸術文化の進行に関する 3 事業については、おおむね達成されている。新型コロナの影響から回復しつつあるが、実感として 8 割程度の回復状況となっている。</p>	<p>①公演 (1)地域の文化・芸術活動助成事業事業 *ドゥドゥプロジェクト *戦後 80 周年記念ミニクラシックコンサート *なごラブコンサート *わくわくおんがくえほんコンサート 2025 *バリアフリーコンサート (2)公共ホール現代ダンス活性化事業 (3)宝くじまちの音楽会 (4)第 38 回市民音楽祭 (5)第 3 回てぶくろアート展 (6)TSUNAGU MUSIC FES (7)第 50 回やんばる展 (8)こども一万人の個展 ②次年度事業計画および予算確保 ③令和 8 年度事業申請 (1)地域の文化・芸術活動助成事業事業 (2)公共ホール現代ダンス活性化事業 (3)公共ホール音楽活性化支援事業 (4)地域の伝統文化保存事業 (5)NHK 公開収録番組</p>
		令和 6 年度 目標値 鑑賞型事業 【8 公演】	令和 6 年度 目標値 鑑賞型事業 【12 公演】	令和 6 年度 実績値 鑑賞型事業 【16 公演】				令和 7 年度 目標値 鑑賞型事業 【12 公演】
	②市民参加型事業の充実	<p>第一線で活躍する芸術家 (アーティスト) が音楽や演劇などのワークショップ*を行い、市民の皆さんと一緒に舞台を創造する「市民参加型」の事業を行います。芸術文化を鑑賞するのみでなく、実際に参加・体験し、市民の芸術文化への関心度を高める機会を増やします。また、市民自らが直接芸術文化に触れ、参加することにより、地域の芸術文化の活性化へとつなげます。</p>	<p>① (1)第 37 回市民音楽祭 (2)宝くじまちの音楽会 (3)第 49 回やんばる展 (4)公共ホール音楽活性化支援活性化事業 (5)公共ホール邦楽活性化事業 (6)地域の文化・芸術活動助成事業事業 (7)ソニー0 オからのクラシックコンサート (8)コミュニティ助成事業</p> <p>②次年度事業計画および予算確保</p>	<p>コンサートにおいて、市内で活動を行っているコーラス団体や音楽教諭が一流アーティストと音楽体験を共有することで芸術文化への関心と今後の活力、また共演者同士のコミュニティの結束力を高め、地域活性化に繋がる体験を提供することができた。市民が自ら音楽祭や展示会等へ参加することで、地域の芸術文化の活性化へとつなげた。 ・アンケート結果の分析による検証・改善等を行った。</p>	A		<p>①公演 (1)第 38 回市民音楽祭 (2)宝くじまちの音楽会 (3)第 50 回やんばる展 (4)地域の文化・芸術活動助成事業事業 *ドゥドゥプロジェクト *わくわくおんがくえほんコンサート 2025 *バリアフリーコンサート (5)公共ホール現代ダンス活性化事業 ②次年度事業計画および予算確保</p>	
	令和 6 年度 目標値 市民参加型・体験型・育成型事業 【5 公演】	令和 6 年度 目標値 市民参加型・体験型・育成型事業 【8 公演】	令和 6 年度 実績値 市民参加型・体験型・育成型事業 【9 公演】				令和 7 年度 目標値 市民参加型・体験型・育成型事業 【7 公演】	

③高齢者、障がい者施設へのアウトリーチ事業の拡充	高齢者福祉施設や障がい者施設、病院等、文化施設に足を運べない人々を対象とした、アウトリーチ事業を展開することで、多くの市民が芸術文化へ触れる機会を提供することができます。音楽（芸術）は精神的癒し、病状（症状）の緩和等というようなことが期待されており、芸術文化が社会に果たす役割を広げるためにもアウトリーチ活動の拡充を図ります。	①高齢者福祉施設や障がい者施設等、文化施設に足を運べない人々を対象としたアウトリーチ事業を展開することで、多くの市民が芸術文化へ触れる機会を提供する。 (1)福祉施設アウトリーチ調整中 ②次年度事業計画および予算確	① (1)松永知史ソプラノコンサート (2)浜&中川アウトリーチコンサート ②次年度事業計画および予算確保	沖縄愛楽園入所者、名護特別支援学校児童生徒を対象に、音楽の力で人々に楽しさと感動を届ける事を目的としたアウトリーチを実施。 ソプラニストの歌声で入所者が普段見られない顔や行動に驚きと感動があったと好評を頂き、身近に芸術文化に触れることのできない方々に音楽を通して、心の癒しと喜びを提供できた。	A			①公演 (1)福祉施設アウトリーチ調整中 ②次年度事業計画および予算確
	令和6年度 目標値 高齢者、障がい者施設へのアウトリーチ事業 【8公演】	令和6年度 目標値 高齢者、障がい者施設へのアウトリーチ事業 【1公演】	令和6年度 実績値 高齢者、障がい者施設へのアウトリーチ事業 【2公演】	①公演 (1)福祉施設アウトリーチ調整中 ②次年度事業計画および予算確				
総合評価						A	A	

具体的施策名	Ⅱ-3-(2) 芸術文化活動担い手支援
主管課	地域経済部 文化スポーツ振興課

現状・課題	次世代の芸術文化を担い、支える人づくりに取り組むため、子ども芸術支援事業の充実を図り、子どもたちの豊かな創造力や、コミュニケーション能力を養うことを目指します。また、子どもたちの指導者と連携し、芸術文化活動へ参加できる環境を整備することで、活動発表、交流の場づくりを行い、芸術文化の担い手と支え手の双方の拡充に努めます。なお、近年、子どもたちを取り巻く環境が時代と共に変化する中で、部活動や習い事などが盛んになり、団員の確保に苦慮しています。 また、指導者についても、専門的な知識や経験を有する者が少なく、同様に厳しい状況にあります。学校等と連携したアウトリーチ事業では、一流のアーティストと身近に触れ合うことでコミュニケーション能力を高め、豊かな感性を養い、より芸術文化への関心を高める機会を提供していきます。
-------	---

		P (計画)	D (実施)	C (検証・評価)		A (改善)		
		当該年度事業計画	取組内容	検証	自己評価	内部評価 (意見)	外部評価 (意見)	次年度事業計画
主 な 取 組	① 子ども芸術支援事業の充実	子どもが持つ豊かな感性と個性を伸ばすため、指導者と連携を図りながら、子どもたちが芸術文化を体感し、表現していくための発表の場、交流の場づくりを行っていきます。また、子どもたちの文化活動を充実させることで児童生徒の健全育成を図ります。	①子どもが持つ豊かな感性と個性を伸ばすため、子どもたちが芸術文化を身近に体感し、表現していくための創造の場、発表の場、交流の場づくりを行う。 (1)てぶくろアート展開催 (2)こども一人の個展開催 (3)3団体の定期活動・発表会 ②次年度事業計画および予算確保	・3団体の定期活動や発表会の実施。 ・てぶくろアート展の実施。 ・こども一人の個展の開催。 ・来場者へのアンケート調査の実施	・児童合唱団や名護ジュニアオーケストラ、児童劇団の子どもたちの日々の練習の成果が人々に喜びや感動を与えることを実感することで、今後の活動の活力に繋げることができた。 ・てぶくろアート展及びこども一人の個展において、子ども達が楽しく芸術を学ぶ創造の場と鑑賞の機会をつくることできた。 ・アンケート結果の分析による検証・改善等を行った。	【全体について】 ・児童生徒の豊かな感性、想像力や個性を伸ばすには、学校での学びだけでは補えない部分がある。一流アーティストによる演奏や表現を肌で感じ、芸術文化に触れ、体験することは、非常に意義がある。今後も継続した取組に期待したい。	【①について】 ・3団体の団員数は増えているでしょうか。活動が活発になっていると良い。引き続き地域の方への芸術支援事業をお願いしたい。  ・児童合唱団、名護ジュニアオーケストラ、児童劇団に参加する子どもが増えたことは喜ばしい。	①公演 (1)てぶくろアート展開催 (2)こども一人の個展開催 (3)団体の定期活動・発表会 ②次年度事業計画および予算確保
		令和6年度 目標値 3団体団員数 【80人】	令和6年度 目標値 【参加者数4,500名】 3団体団員数 【50名】	令和6年度 実績値 【参加者数5,342名】 3団体団員数 【61名】	A	【②について】 ・公共ホール邦楽活性化事業の取組は、沖縄の文化がテーマとなっており、市民も興味を持って素晴らしい取組なので継続してもらいたい。	・現在3団体の育成支援を行っているが、目標が達成されていることから、新たな団体の育成も考慮したい。	令和7年度 目標値 【参加者数4,500名】 3団体団員数 【50名】 3団体活動回数 【140回】 3団体発表会等活動回数 【3回】
		3団体活動回数 (年間) 【140回】	3団体活動回数 【140回】	3団体活動回数 【132回】				
		3団体定期公演回数 【3回】	3団体発表会等活動回数 【3回】	3団体発表会等活動回数 【3回】				
	② 市内の学校等と連携したアウトリーチ事業の展開	市内の学校等へプロのアーティストを派遣し、ワークショップやミニコンサートを実施することで、子どもたちに学校での学びだけでなく、芸術文化を身近に感じ、体験・活動ができる環境作りを行います。また、プロの演奏や表現を肌で感じることで、児童生徒の創造力や感性を刺激し、生きる力やコミュニケーション能力の向上を図ります。	①市内の学校等へプロのアーティストを派遣し、ワークショップやミニコンサート等を実施する。 (1)公共ホール音楽活性化支援活性化事業 (2)公共ホール邦楽活性化事業 (3)地域の文化・芸術活動助成事業	* 芸術家の派遣事業 ・久辺小学校 * 公共ホール音楽活性化支援活性化事業 ・あけみお学級 ・沖縄三育中学校 ・桜野特別支援学校 ・名護市学習支援教育くにもとや * 公共ホール邦楽活性化事業 ・わんさか大浦パーク (畜産関係者・地域住民等) ・藤崎紅型工房 (工房職人・伝統工芸愛好者等) ・仲尾トンネル (わかめ会会員・地域住民等) ・久護家 (屋部八月踊り保存会会員・地域住民等) * 地域の文化・芸術活動助成事業 ・名護特別支援学校 ・図書館司書、学校司書 * 来場者へのアンケート調査の実施	・プロの演奏や表現力で想像力や豊かな感性を育み、コミュニケーション能力の向上を図ることができた。 ・学校でのアウトリーチを実施するにあたり学校側との連携や芸術普及活動のニーズについて把握することができた。 ・アンケート結果の分析による検証・改善等を行った。	A	・多種多様な場所で事業を開催し、芸術文化活動の普及に努めていることがうかがえる。	①公演 (1)福祉施設アウトリーチ調整中 ②次年度事業計画および予算確
		令和6年度 目標値 学校等へのアウトリーチ事業回数 【25回/20校】	令和6年度 目標値 実施回数/実施校 (場所) 【10回/10校 (箇所)】	令和6年度 実績値 実施回数/実施校 (場所) 【11回/11校 (箇所)】				①公演 (1)福祉施設アウトリーチ調整中 ②次年度事業計画および予算確
総合評価						A	A	

具体的施策名	Ⅱ-3-(3) 市民会館の管理・運営の充実
主管課	地域経済部 文化スポーツ振興課

現状・課題	市民会館は昭和60年(1985年)に開館し、これまで市民文化の創造活動の拠点として、本市の芸術文化活動の推進に大きく寄与してきました。築後30年以上を経過し、建物及び各種設備は老朽化が進み、会館全体の大規模な改修、修繕が必要な状態です。施設の安全を確保し、維持修繕を行っていく必要があります。 文化薫るまちづくりの活動拠点として、市民が安全・安心な環境で利用できるように、安全管理に十分な配慮が必要です。
-------	---

		P (計画)	D (実施)	C (検証・評価)		A (改善)		
		当該年度事業計画	取組内容	検証	自己評価	内部評価 (意見)	外部評価 (意見)	次年度事業計画
主 な 取 組	①安全対策や防災対策などに配慮した施設や設備の維持管理	不特定多数が利用する施設として、危機管理・安全対策等に配慮した管理運営を行います。防災・防犯対策を構築し、利用者の安全を常に確保する維持管理に努めます。想定される様々なリスクに対応できるよう、職員の危機管理対応能力の向上を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>*施設の維持・管理業務【警備(防災・防犯対策)・施設設備・舞台設備(日常点検・法定定期点検・修繕メンテナンス等)、清掃(日常清掃・定期清掃・環境美化等)】適正に業務を実施した。</li> <li>*施設設備不具合箇所改善取り組み。</li> <li>・事業計画通りの不具合箇所及び設備部品購入更新業務等16件改善。</li> <li>・次年度施設設備修繕計画・舞台機構設備更新計画に基づいた財源確保。</li> <li>・市民会館屋上が津波避難施設となっていることから利用者等に対する職員の防災対策の認識強化。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民会館維持管理については、建物や設備等の老朽化が進み、施設を整備するための財源確保が厳しい状況の中、安全・安心な施設運営のため、計画的な個別改修計画の推進に向けて取組みができた。</li> <li>本市ならびに北部の芸術文化活動の拠点施設である市民会館の機能維持・向上を目指し、市民のニーズを捉えながら、計画的かつ効率的な管理運営に努めることができた。</li> <li>・施設利用者の安全対策や防災対策を適切に講じていく取組みが必要と考える。</li> </ul>	A	<p>【全体について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設利用者の安全・防災対策に引き続き努めてほしい。</li> </ul> <p>【①について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本市のみならず、北部地域の文化活動の拠点として、市民会館の機能及び市民のニーズに即した市民会館運営に努めてほしい。</li> </ul>	<p>【全体について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老朽化で修繕箇所が今後増えていくことも想定されるが、引き続き建替えを含めて検討をお願いしたい。</li> <li>・市民会館の老朽化に伴い、設備点検や維持管理業については、おおむね良好である。職員の危機管理対応能力の向上が望まれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①建物や施設設備の老朽化等が進む中、実施計画や修繕計画に基づき、施設が安心安全に利用できるよう適切な維持管理に努める。</li> <li>(1)施設総合管理業務</li> <li>(2)館内電話機移設修繕業務</li> <li>(3)ピアノ分解点検業務</li> <li>(4)特定建築物定期調査</li> <li>(5)施設周辺清掃・環境整備業務</li> <li>(6)建物・施設設備等修繕等業務</li> <li>(7)舞台設備等修繕等業務</li> <li>(8)市民会館建替更新検討に関する基礎調査(情報収集や先進地視察等)</li> <li>②建物等中長期修繕計画や実施計画に基づいた予算確保</li> </ul>
	②利用者のニーズに応じた管理・運営の充実	利用者の声を反映した設備機器等の充実を図るとともに、時代に沿った施設の運用・安全管理を行っていきます。芸術文化活動に取り組む市民が利用しやすい利便性の高い施設とするとともに、様々なニーズに対応できる柔軟性を備えた管理運営を行います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音響設備機器備品購入。</li> <li>・市民会館建て替え更新検討に関する基礎調査及び市民会館運営組織強化計画の策定業務。</li> <li>・次年度施設備品購入計画に基づいた予算確保</li> <li>・市民が利用しやすい施設利用申請のあり方や施設設備等の整備を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LED 舞台照明機器等の導入により、設備機能が強化され、利用者のニーズに対応できる環境整備に努めた。</li> <li>また、ホールの貸し館業務における管理運営として、施設利用者への助言や芸術文化団体等への活動支援を専門職員が行うことで利用者のニーズに柔軟に対応できた。</li> </ul>	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>①利用者の声を反映した設備機器等の充実を図るとともに、時代に沿った施設の運用・安全管理を行っていく。</li> <li>(1)建物・施設設備等修繕等業務</li> <li>(2)舞台設備等修繕等業務</li> <li>②備品購入計画に基づいた予算確保</li> </ul>	
総合評価						A	A	

具体的施策名	Ⅱ-4-(1) 中央公民館の充実
主管課	地域経済部 地域力推進課

現状・課題	市内には、中央公民館をはじめ、博物館、図書館等の社会教育関連施設があり、それぞれの施設において特色ある事業が展開されています。中央公民館施設だけに留まらず、関連施設との連携強化を図るとともに、各支所を積極的に活用し、地域特性、多様な課題に対して、幅広い年齢層の市民ニーズを捉え時代に即した内容を取り上げ、学習効果をより一層地域に還元できるよう公民館講座に取り組む必要があります。
-------	---

		P (計画)	D (実施)	C (検証・評価)		A (改善)		
		当該年度事業計画	取組内容	検証	自己評価	内部評価 (意見)	外部評価 (意見)	次年度事業計画
主な取組	①サークル団体の支援及び発表機会の提供	<p>充実したサークル活動ができるよう施設の定例利用や使用料の減免など団体を支援しています。年に1回、サークル団体の活動を披露するための発表会を実施していきます。</p> <p>令和6年度 目標値 中央公民館サークル団体数 【46団体】</p> <p>サークル活動発表会 【1回】</p>	<p>・サークル活動支援として、SNS等を活用した情報発信やサークル会員の増加に寄与する取り組みを実施する。</p> <p>・サークル登録団体数：34 ・登録団体へ使用料減免等を実施。 ・展示会：R6.11月～R7.3月まで中央公民館1階にて開催。6組のサークルが展示を行った。 ・R6.11月～Instagramにて名護中央公民館専用アカウント開設。サークル活動、講座のお知らせ、公民館紹介等の広報を実施中。 ・名護市営市場と公民館に設置されているオーロラビジョンにて3月3日から31日までの1か月間、サークル活動広報を行った。 ・3月開催名護福祉まつりにて、中央公民館紹介ブースを出展。同時にサークルの舞台発表を5団体が行い、体験型ワークショップを2団体が行った。</p> <p>令和6年度 実績値 中央公民館サークル団体数 【34団体】</p> <p>サークル活動発表会 【1回】 展示発表【6団体】 舞台発表【5団体】 ワークショップ【2団体】</p>	<p>・サークル活動を多くの方にとって頂くため中央公民館1階にてパネル展示会を開催、サークル活動の紹介を実施した。その間、多くの方が公民館を訪れ、サークルへの問い合わせ及び見学者が増えたと聞いている。 ・引き続き、中央公民館の各種研修室をサークル活動の場として提供することでサークル活動の継続を支援していく。 ・令和6年11月～Instagramにてアカウント開設。講座やサークル紹介、名護市役所に関するイベント情報を発信しており、Instagramを見て講座の申し込みや問い合わせがあった。 ・舞台発表や展示についてはどちらも盛況であった。体験型ワークショップは、参加した方が1名入会したと伺った。</p>	B	<p>【①について】 ・サークル団体の最終的な目標となる団体数は、何団体なのか検討する必要がある。 ・SNS等を活用した効果的な情報発信が行われている。</p> <p>【②について】 ・講座内容について、社会情勢を鑑みスマホや詐欺等に関する講座を継続しても良いと思う。 ・多様な講座を企画し、老若男女を問わず、社会の変化やニーズに応じた講座に実施していることは、とても評価できる。</p> <p>・アンケート結果を活用したニーズの把握により、多様な講座が提供されている。取組の継続を期待する。</p> <p>【④について】 ・名護市公民館連絡協議会との連携は、粘り強く進めてほしい。</p>	<p>【全体について】 ・SNSの活用等で幅広い年齢層に取組が届いていると思う。目標値や実績値には現れていないが、取組は、十分できていると評価する。</p> <p>【②について】 ・今後とも、地域のための講座実施をお願いしたい。 ・中央公民館の事業も計画どおり行われており、地域住民のニーズに応じて、企画が実施されている。講座の回数は上回っているが、参加者数が予想に反して、少ないのはもったいない。</p>	<p>サークル活動支援として、SNS等を活用した情報発信やサークル会員の増加に寄与する取り組みを実施する。 サークル活動立ち上げ支援を目的に「サークル立ち上げ支援講座」の募集を行う。 内容としては、サークルを立ち上げたい市民を募り、体験講座を企画・実施し、周知・広報活動支援及び施設使用料等を免除する。</p> <p>令和7年度 目標値 中央公民館サークル団体数 【36団体】</p> <p>サークル活動発表会 【1回】</p>
	②社会的な課題をテーマにした講座の実施	<p>「eスポーツ*体験」や「法律問題」など、社会の変化や要望に応じた講座を実施し、市民生活の向上を目指します。</p>	<p>・社会の変化や要望に応じた講座の開催を目指しており、名護地区以外の4地区それぞれの地域に適した防災講座、相続に関する講座、時代に合わせたドローン講座やSNS活用講座を企画していく。 ・また、中央公民館利用者以外の市民ニーズを調査するために名護市公式SNS等を活用してアンケート調査を実施し、市民ニーズの把握に努める。</p>	<p>公民館提案講座 ①行動の心理学からみる対人関係のコツ：32人 ②屋我地島のアジサシ類講座&amp;観察会：20人 ③宇宙から広がる可能性～自由な発想・たくさんのチャンス～：27人 ④夏休み講座親子で作ろう首里城破損瓦でクラフト：35人 ⑤夏休み3回連続講座(低学年対象)楽しい絵画教室：25人 ⑥夏休み3回連続講座(高学年対象)～絵の描き方教室～色々な描き方を学ぼう～：15人 ⑦夏休み講座～習字教室～(高学年4～6年生)：12人 ⑧夏休み講座～習字教室～(高学年1～3年生)：21人 ⑨琉球かれん音楽療育：10人 ⑩誰でも楽しく始めよう将棋講座！！：9人 ⑪ ⑫星空観察会～一生に一度の体験!?アトラス彗星～：39人 ⑬気軽に楽しく社交ダンス～</p>	<p>・アンケートの結果より満足度の高い講座と生涯学習の機会提供ができた。 ・eスポーツ体験と相続講座、といった社会の変化、要望に応じた講座を実施することができた。 ・名護市公式LINEによるアンケート結果を反映し、「男の簡単料理講座～おつまみ編～」を開催。その後、料理に興味を持った参加者が「男の簡単料理講座～大人のイタリアン編～」に続けて参加している様子が見られた。アンケートは今後も参考とする。</p>	B	<p>【⑤について】 ・学生を対象にした講座は、ピンポイントで良いと感じた。</p>	<p>令和5年度から継続し実施している「防災講座」に加え、「資産運用講座」、「ライフマネープラン講座」等の社会的課題を解決するきっかけとなる講座を実施する。 アンケート結果で人気の高かった「健康」「料理」「文化・学習」をテーマとした「腸活講座」「健康的なカラダ作り講座」、「星空観察」「名護岳自然観察会」等、市民の要望に応えた講座を実施する。</p>

			<p>初心者から始めるワンステップ～：20名</p> <p>⑭～タイ国クラブ交流事業～南タイの家庭料理教室：25名</p> <p>⑮男の簡単料理講座～おつまみ編～：10名</p> <p>⑯楽しく学べるボードゲーム～GAME START～：10名</p> <p>⑰親子eスポーツ講座～ゲームから始めるスポーツ競技～：16名</p> <p>⑱琉球菓子講座～琉球料理传承人から学ぶ～：24名</p> <p>⑲初めての三線(サンシン)体験講座：13名</p> <p>⑳終活・相続講座～令和の終活事情とヤンバルで起きた事例～：33名</p> <p>㉑男の簡単料理講座～大人のイタリアン編～：24名</p> <p>・名護市公式 LINE にて「名護中央公民館講座に関するアンケート実施：回答者 117名</p>				
	令和6年度 目標値 講座実施数 【21回】 講座受講者数 【900人】	令和6年度 目標値 講座実施数 【30回】 講座受講者数 【600人】	令和6年度 実績値 講座実施数 【38回】 講座受講者数 【420人】			令和7年度 目標値 講座実施数 【30回】 講座受講者数 【500人】	
中央公民館の管理・運営の充実 ③社会教育拠点施設として	利用者が安全で快適に活動ができるよう、施設の修繕や備品の整備等を行います。	・利用者が安全で快適に活動ができるよう、施設の修繕や備品の整備等を実施する。 特に冷房設備については、年間計画を策定し、計画的な設備更新を行う。	冷房設備については令和6年度に年間計画を策定し、計画的な更新を行っている。冷房設備以外にも利用者が安全で快適に活動できるように、工作室雨漏り修繕や会議室のテーブル、イス、調理室用給湯器、調理器具を購入した。	社会教育施設として年間延べ4,727件、人数54,259人(令和6年度実績)の利用があり、年齢層も幅広いことから安全・快適に利用できる施設の確保は最も重要であるため、引き続き日々の点検や修繕箇所の確認・利用者からの施設に関する意見聴取を積極的に行っており、冷房設備については、年間計画に基づき実施していく。	A	利用者が安全で快適に活動できるように、施設の修繕や備品の整備等を行う。 特に施設利用者から要望のある女子トイレの洋式化に取り組む。	
館連絡協議会との連携の充実 ④「名護市公民館」	自治公民館長や書記を対象にした研修会を実施し、「名護市公民館連絡協議会」と連携の充実を図ります。	・沖縄県公民館連絡協議会主催の研修会への参加。	・沖縄県公民館連絡協議会主催の研修会への参加 ・第54回沖縄県公民館研究大会南部大会へ参加	※名護市公民館連絡協議会主催の研修会実施なし。 令和6年度実施計画に記載なし。	B	沖縄県公民館連絡協議会主催の研修会へ参加する。	
	令和6年度 目標値 公民館職員等研修会 【1回】	令和6年度 目標値 公民館職員等研修会 【1回】	令和6年度 実績値 公民館職員等研修会 【2回】			令和7年度 目標値 公民館職員等研修会 【2回】	
各市区及び他機関との連携の実施 ⑤各市区及び他機関との連携した講座	各支所及び他機関と連携した講座を展開し、出前講座を実施します。	地域移動講座計画 ・防災講座(4支所館内) ・メイク講座(高校と連携)	①「災害への10の備え」～強いまちづくりを目指して～：63名(4支所開催) ②木の端材で作る自由工作(羽地展共催)：12人 ③素敵な明日を目指して!!スキんケア&マナー講座(名護高校2回、名護商工1回、北部農林高校1回)：563人	・各支所で市内4地区それぞれの地形を踏まえた防災講座の開催や青少協羽地支部主催の「羽地展」とのコラボとこれまでにない講座開催ができた。 ・高校生がメイクの基礎を学ぶと同時に、講座終了後にInstagramのフォロワーが増となり、公民館の周知に繋がった。	A	地域移動講座の実施 ・羽地展にて「木の葉材で作ったおもちゃ作り」(羽地支所) ・青少年育成協議会屋我地支部主催のイベントにて「苔テラリウム作り」(屋我地支所)	
	令和6年度 目標値 地域移動講座 【5回】	令和6年度 目標値 地域移動講座 【10回】 講座受講者数 【150人】	令和6年度 実績値 地域移動講座 【9回】 講座受講者数 【638人】			令和7年度 目標値 地域移動講座 【10回】 講座受講者数 【150名】	
総合評価					B	A	

具体的施策名	Ⅱ-5-(1) 生涯スポーツの充実	現状・課題	地域イベントでのスポーツ教室や夏休みの学校プール一般開放等、名護市スポーツ推進委員と連携して、市民が気軽にスポーツに親しめる環境づくりに取り組んでいます。 また、地域のスポーツ振興を担う名護市スポーツ推進委員の資質向上に努めるとともに、新規スポーツ推進委員の確保に取り組んでいます。
主管課	地域経済部 文化スポーツ振興課		

		P (計画)	D (実施)	C (検証・評価)		A (改善)			
		当該年度事業計画	取組内容	検証	自己評価	内部評価 (意見)	外部評価 (意見)	次年度事業計画	
主な取組	① 各種スポーツ教室の開催	市民が気軽にスポーツに親しめるよう地域イベント等で各種スポーツ教室を開催します。	・スポーツ推進委員や各関係団体との連携のもと各種イベントを開催する。	・羽地ダム鯉のぼり祭り軽スポーツコーナー 391名 ・シーカヤック教室 40名 ・ツールドおきなわ輪車大会中止 (申込数:164名) ・小学校交流駅伝大会 中止 ・少年少女水泳教室 34名 ・地域ウォーク 696名 ・チャレンジRUN 1,125名	各種スポーツ教室や大会が実施でき、目標値も達成できた。広く参加者を募る観点から、他イベントとの同時開催を実施していきたい。	A	【全体について】 ・様々な職種で働き方改革が進められ、余暇の過ごし方についても人それぞれだと思ふ。人生100年時代の健康維持のためにも、名護市における継続的な生涯スポーツの推進に向け、頑張ってもらいたい。	【全体について】 ・市民向けのスポーツイベントの開催を引き続きお願いしたい。  ・各種スポーツ教室の開催については、目標値を大幅に上回っており、良好である。	・スポーツ推進委員や各関係団体との連携のもと各種イベントを開催する。
		令和6年度 目標値 スポーツ教室等への参加者 【1,700人】	令和6年度 目標値 スポーツ教室等への参加者 【1,000人】	令和6年度 実績値 スポーツ教室等への参加者 【2,286名】					令和7年度 目標値 スポーツ教室等への参加者 【2,000人】
	② 一般開放プール事業 (羽地中、緑風学園)	市民の体力向上と水泳の振興を図るため、夏季休業期間における学校プールの一般開放を実施します。	・羽地中学校及び緑風学園のプールを活用して、夏季休業期間において、学校プールを一般に開放する。	・プール一般開放事業 利用者 1,181名	2施設においてプール一般開放事業が実施でき、広く市民の体力向上につながった。	A	【②について】 ・緊急時の対応として、プール使用期間は AED を設置し、安全対策を行ってほしい。使用時期だけレンタルで対応することはできないか。	【③について】 ・スポーツ推進員の確保に関する検討・取組を強化していただきたい。	・羽地中学校及び緑風学園のプールを活用して、夏季休業期間において、学校プールを一般に開放する。
		地域のスポーツ振興を担う名護市スポーツ推進委員の確保や資質向上を図るための研修会等への参加や実技研修会を実施します。	・スポーツ推進委員の資質向上及び技能向上を図るとともに、周知を強化し人員確保に努める。	【研修会・研究大会への参加】 ・北部地区研修会 5名 ・沖縄県研修会研究大会 14名 ・九州地区研究大会 3名 ・全国研究大会 2名  【自主研修会】 ・定例会: 5回 ・月例会 (実技研修): 8回	各種研修会にスポーツ推進員が参加し、資質能力向上につながった。また、推進員の参加と併せて市職員も参加し、技術のみならず、スポーツ推進に必要な視点を学ぶことができた。推進委員数については、自己都合により退任者が出たため目標を達成できなかった。引き続き推進委員の確保を進めていきたい。				令和7年度 目標値 スポーツ推進委員数 【17人】
	③ スポーツ推進委員の組織強化及び活動支援	地域のスポーツ振興を担う名護市スポーツ推進委員の確保や資質向上を図るための研修会等への参加や実技研修会を実施します。	・スポーツ推進委員の資質向上及び技能向上を図るとともに、周知を強化し人員確保に努める。	【研修会・研究大会への参加】 ・北部地区研修会 5名 ・沖縄県研修会研究大会 14名 ・九州地区研究大会 3名 ・全国研究大会 2名  【自主研修会】 ・定例会: 5回 ・月例会 (実技研修): 8回	各種研修会にスポーツ推進員が参加し、資質能力向上につながった。また、推進員の参加と併せて市職員も参加し、技術のみならず、スポーツ推進に必要な視点を学ぶことができた。推進委員数については、自己都合により退任者が出たため目標を達成できなかった。引き続き推進委員の確保を進めていきたい。	A	【②について】 ・緊急時の対応として、プール使用期間は AED を設置し、安全対策を行ってほしい。使用時期だけレンタルで対応することはできないか。	【③について】 ・スポーツ推進員の確保に関する検討・取組を強化していただきたい。	・スポーツ推進委員の資質向上及び技能向上を図るとともに、周知を強化し人員確保に努める。
		令和6年度 目標値 スポーツ推進委員数 【20人】	令和6年度 目標値 スポーツ推進委員数 【17人】	令和6年度 実績値 スポーツ推進委員数 【12名】	令和7年度 目標値 スポーツ推進委員数 【17人】				
総合評価						A	A		



具体的施策名	Ⅱ-5-(3) スポーツ施設の整備拡充
主管課	地域経済部 文化スポーツ振興課、観光課

現状・課題	管理施設である 21 世紀の森体育館や名護市陸上競技場、名護市B&G海洋センタープール、真喜屋運動広場、羽地ダム多目的広場は、経年劣化による不具合が度々生じている現状があるため、利用者が安全で安心して利用できる環境の整備が必要です。 また、スポーツコンベンション*誘致を実施するため、その核施設となるサッカーラグビー場を整備し、快適なスポーツ環境を整備します。
-------	---

		P (計画)	D (実施)	C (検証・評価)		A (改善)		
		当該年度事業計画	取組内容	検証	自己評価	内部評価 (意見)	外部評価 (意見)	次年度事業計画
主な取組	①スポーツ施設維持管理業務	指定管理者と連携を図り、利用者が安全で安心して利用できる環境を整備します。	指定管理者と定期的に会議を開催し、施設の現状把握に努め、計画的な修繕等を行い安全安心な施設の環境を整備する。	指定管理者と定期的に会議を開催し、施設の現状把握に努め、計画的な修繕等を実施。	施設の不具合による利用不可日数を削減することができた。それに伴い、施設利用者数の目標値達成できた。	A	【全体について】 ・今後も利用者が安全で安心して利用できる施設の運営・管理に努めていってほしい。  【①について】 ・引き続き指定管理者との連携を密にし、安心して安全に利用できるよう努めてほしい。	指定管理者と定期的に会議を開催し、施設の現状把握に努め、計画的な修繕等を行い安全安心な施設の環境を整備する。
		令和6年度 目標値 管理施設利用者数 【200,000人】	令和6年度 目標値 管理施設利用者数 【200,000人】	令和6年度 実績値 管理施設利用者数 【228,698人】	令和7年度 目標値 管理施設利用者数 【220,000人】			
	②サッカーラグビー場の整備	スポーツコンベンションの核施設として、21世紀の森サッカーラグビー場を改修し、スポーツキャンプやスポーツ大会等の誘致を図ります。	事業完了	—	—	—	—	—
		令和6年度 目標値 サッカーラグビー場の整備 【令和3年度整備完了予定】	—	—	—	—	—	—
総合評価						A	A	

具体的施策名	Ⅲ-1-(1) 青少年の健全育成に向けた取組の充実
主管課	地域経済部 地域力推進課

P (計画)

現状・課題	県内における、深夜はいかい、飲酒、喫煙等の不良行為で補導された少年は、全国の増減比と比べると、高い水準で推移しており、また、青少年を取り巻く環境も、夜型社会や、全国平均を上回る子どもの貧困率、離婚率など、課題が多く、青少年健全育成体制の充実を図るには、学校、家庭、地域、関係機関が連携して取り組む必要があります。 都市化や過疎化の進展に伴い、世帯規模の縮小、地域社会の連帯感の希薄化、子どもたちが生まれ育つ家庭環境や地域社会の環境が大きく変化している中、子どもたちの体験格差や日常の異年齢の子ども間の交流の減少、それに伴うコミュニケーション力の低下等の課題は、全ての教育の出発点といわれる家庭教育への支援について、親だけでなく、地域を巻き込んだ支援体制を整える必要があります。
-------	---

D (実施)

C (検証・評価)

A (改善)

		当該年度事業計画	取組内容	検証	自己評価	内部評価 (意見)	外部評価 (意見)	次年度事業計画	
主な取組	① 「名護市青少年育成協議会」活動の支援	<p>「名護市少年の主張大会、ふるさと・未来・絆リーダー研修、善行青少年・青少年育成功労者並びに青少年育成功労者団体表彰、夏まつり・さくら祭り夜間街頭指導活動」等を実施します。</p> <p>令和6年度 目標値 青少年向けの育成事業への参加者数 【1,000人】</p>	<p>第44回名護市少年の主張大会(6月)</p> <p>ふるさと・未来・絆リーダー研修(6月~12月) ◇友好都市館林市児童交流(10月) ◇研修会 計6回実施</p> <p>善行青少年、青少年育成功労者並びに青少年育成功労団体表彰(11月)</p> <p>夜間街頭指導活動(夏祭り、さくら祭り)。</p> <p>令和6年度 目標値 青少年向けの育成事業への参加者数 【550人】</p>	<p>① 第44回名護市少年の主張大会(7月9日) ◇7名</p> <p>ふるさと・未来・絆リーダー研修(6月~12月) ◇友好都市館林市児童交流(10月) ◇研修会 計6回実施 ◇19名</p> <p>善行青少年、青少年育成功労者並びに青少年育成功労団体表彰(11月) ◇11名、3団体</p> <p>夜間街頭指導活動(夏祭り、さくら祭り)。 ◇327名</p> <p>令和6年度 実績値 青少年向けの育成事業への参加者数 【367人】</p>	<p>少年の主張大会は7名の参加があり、2名を国頭地区大会へ派遣した。 ふるさと・未来・絆リーダー研修は、友好都市の館林市を訪問し、館林市の児童との交流事業を実施することが出来、沖縄とは異なる文化や風景、交流を体験することが出来た。 表彰事業は、11名、3団体の表彰を実施した。 夜間街頭指導活動は、例年通り、夏まつりとさくら祭りで実施し、600名余りの青少年への帰宅の促し等、声掛けを実施することが出来た。 設定していた目標値には至らなかったが、計画通りに事業を実施する事が出来た。</p>	A	<p>【全体について】 ・継続的な意識付けが大事だと思うので、しっかりと周知して行ってほしい。</p> <p>【②について】 ・効果のある取組は、継続し、啓発活動も進めて良いと思う。</p> <p>・深夜徘徊防止や薬物乱用防止について、ラジオドラマやポスターを制作して成果が見られたことは良かった。</p> <p>【④について】 ・現在、児童生徒を取り巻く社会環境は多様化・複雑化し、それに対応できる児童生徒の育成が重要と思う。これからも児童生徒の健全育成事業の充実に向け頑張ってもらいたい。</p> <p>・目標を上回る体験学習の実施があり、児童生徒の育成に努めていることが評価できる。</p>	<p>【①について】 ・青少年健全育成の評価として、名護署が情報を持っているかもしれないが、高校生以下の補導件数の各年度の推移を確認することで、効果的な活動かどうかの指標とすることはできないか。</p> <p>・青少年の健全育成に向けた取組は、参加者数の目標ではなく、実施回数や検証効果での評価にした方が良い。実施の意義を考慮し、計画的、効率的に行うことが望ましい。</p> <p>令和7年度 目標値 青少年向けの育成事業への参加者数 【550人】</p>	<p>第45回名護市少年の主張大会(7月)</p> <p>ふるさと・未来・絆リーダー研修(6月~12月) ◇友好都市館林市児童交流(8月) ◇研修会 計7回実施</p> <p>善行青少年、青少年育成功労者並びに青少年育成功労団体表彰(11月)</p> <p>夜間街頭指導活動(夏祭り、さくら祭り)。</p> <p>令和7年度 目標値 青少年向けの育成事業への参加者数 【550人】</p>
	② 「深夜はいかい防止等名護市民大会」の開催	<p>青少年の夜遊びや深夜はいかい、未成年の飲酒を防止し、全市民が「夜型社会」や「飲酒に対する意識」の是正を図り、生活リズムの確立を目指すため、市民大会を開催しています。</p> <p>令和6年度 目標値 「深夜はいかい防止等名護市民大会」の開催 【1回】</p>	<p>令和6年度「青少年の深夜はいかい防止・二十歳未満者飲酒防止・いじめ防止、暴力根絶・夏の交通安全県民運動」名護市民一斉行動 意識啓発広報活動</p> <p>6月：県依頼事項に基づき実施要項整備、関係機関・団体へ共催依頼</p> <p>7月：広報物製作、令和6年度「青少年の深夜はいかい防止・二十歳未満者飲酒防止・いじめ防止、暴力根絶・夏の交通安全県民運動」作文ポスター作品募集の実施</p> <p>令和6年度 目標値 「市民一斉行動」の実施 【1回】</p>	<p>令和6年度「青少年の深夜はいかい防止・二十歳未満者飲酒防止・いじめ防止、暴力根絶・夏の交通安全県民運動」名護市民一斉行動 意識啓発広報活動</p> <p>・県依頼事項に基づき実施要項整備、関係機関・団体へ共催依頼、ポスターの配布</p> <p>・広報物製作 ◇ラジオドラマを制作し、市内全中学校、高校へ配布、昼休み等で放送してもらった。 ◇市内飲食店を中心に392部のポスターを配布</p> <p>・令和6年度作文ポスター作品募集の実施 ◇応募者 1名(沖縄県青少年育成県民会議会長賞を受賞)</p> <p>令和6年度 実績値 「市民一斉行動」の実施 【1回】</p>	<p>昨年度に引き続きラジオドラマを制作した。今年度は「薬物」をテーマに取り上げた。 また、ポスターは、青少年の深夜の外出をテーマに取り上げた。配布した飲食店からもポスターがあることで、子連れの客へ声を掛けやすくなった等の意見があり好評であった。 近年は、青少年に関する多様なトラブルが問題となっているため、引き続き継続して取り組みたい。</p>	A	<p>・目標を上回る体験学習の実施があり、児童生徒の育成に努めていることが評価できる。</p>	<p>令和7年度 目標値 「市民一斉行動」の実施 【1回】</p>	<p>令和7年度「青少年の深夜はいかい防止・二十歳未満者飲酒防止・いじめ防止、暴力根絶・夏の交通安全県民運動」名護市民一斉行動 意識啓発広報活動</p> <p>6月：県依頼事項に基づき実施要項整備、関係機関・団体へ共催依頼</p> <p>7-8月：広報物製作、令和7年度「青少年の深夜はいかい防止・二十歳未満者飲酒防止・いじめ防止、暴力根絶・夏の交通安全県民運動」作文ポスター作品募集の実施</p>
	③ 夜間街頭指導の実施	<p>夏まつり、さくら祭りにおいて、小・中・高校の校外指導部や少年補導員協議会、名護警察署等と連携し、夜間街頭指導活動を実施しています。また、毎月第3金曜日の少年を守る日は児童生徒の下校時間に青色回転灯車両で巡回パトロールを実施します。</p> <p>令和6年度 目標値 「市民一斉行動」の実施 【1回】</p>	<p>夜間街頭指導活動ボランティア(夏まつり及びさくら祭り)</p> <p>※教職員及び保護者等への負担軽減を目的に事業見直しを行うため、目標値を引き下げた。</p>	<p>夜間街頭指導活動ボランティア(夏まつり及びさくら祭り)</p> <p>※教職員及び保護者等への負担軽減を目的に事業見直しを行うため、目標値を引き下げた。</p>	<p>本年度も教職員の動員について配慮し、夜間街頭指導活動を実施したが、多くの参加者に協力を頂き、600名余りの青少年への声掛けを実施することが出来た。</p>	A		<p>夜間街頭指導活動ボランティア(夏まつり及びさくら祭り)</p> <p>※教職員及び保護者等への負担軽減を目的に事業見直しを行うため、目標値を引き下げた。</p>	

	令和6年度 目標値 街頭指導の参加者数 【500人】	令和6年度 目標値 街頭指導の参加者数 【350人】	令和6年度 実績値 街頭指導の参加者数 【327人】				令和7年度 目標値 街頭指導の参加者数 【350人】
④自然体験活動を通じた児童生徒の健全育成事業の充実	次代を担う青少年が異年齢の集団による「ふるさと・未来・絆リーダー研修」、「ジュニアリーダークラブ活動」などの研修や体験活動をとおして、自然・歴史・文化に触れ、コミュニケーション力や協調性、規範意識を身に付け、自ら考え発言し行動する力を培い、持続可能な地域社会を構築できる人材育成を実施します。	<b>【名護市子ども会育成連絡協議会】</b> ・名護市ジュニアリーダークラブ活動支援 ・毎月定例ミーティングのサポート→ミーティングで企画された活動のサポート ・初級ジュニアリーダー・子どもリーダー研修（R6.3月） ・ふるさと・未来・絆リーダー研修（6月～12月） ・中級ジュニアリーダー研修（夏7月、冬11月） ＊国頭地区主催） ・上級ジュニアリーダー研修（12月） ＊沖縄県子連主催） ・沖子連ジュニアリーダー大会（10月） ＊沖縄県子連主催）	<b>【名護市子ども会育成連絡協議会】</b> ・名護市ジュニアリーダークラブ活動支援 ・毎月定例ミーティングのサポート→ミーティングで企画された活動のサポート ・初級ジュニアリーダー・子どもリーダー研修（R7.3月） ・ふるさと・未来・絆リーダー研修（6月～12月） ・中級ジュニアリーダー研修（夏3月、冬11月） ＊国頭地区主催） ・上級ジュニアリーダー研修（12月） ＊沖縄県子連主催） ・沖子連ジュニアリーダー大会（9月） ＊沖縄県子連主催） ・40周年記念イベントの開催	悪天候による中級研修の延期はあったが、計画通りに事業を実施する事が出来た。 また、市子連が40周年を迎えたことによるイベントを開催した。多くの来場者へ市子連の活動やジュニアリーダーの活動についてPRすることが出来、良い節目となった。引き続き、体験活動を通じた児童生徒の育成について、取り組んでいきたい。	A		<b>【名護市子ども会育成連絡協議会】</b> ・名護市ジュニアリーダークラブ活動支援 ・毎月定例ミーティングのサポート→ミーティングで企画された活動のサポート ・初級研修（R7.12月） ・ふるさと・未来・絆リーダー研修（6月～12月） ・中級研修（夏7月、冬11月） ＊国頭地区主催） ・上級研修（12月） ＊沖縄県子連主催） ・九州地区・沖子連ジュニアリーダー研修会（8月） ＊沖縄県子連主催）
	令和6年度 目標値 自然体験学習の実施 【4回】	令和6年度 目標値 体験学習の実施 【10回】	令和6年度 実績値 体験学習の実施 【12回】	令和7年度 目標値 体験学習の実施 【12回】			
総合評価						A	A

具体的施策名	Ⅲ-1-(2) 家庭・地域の教育力向上の推進
主管課	学校教育課、(教)総務課 地域経済部 地域力推進課

現状・課題	家庭支援教育事業に係る人材の発掘と育成の仕組みの構築による、各小学校校区単位での持続可能な支援体制づくりが必要となっています。また、家庭教育支援事業と公民館講座の親和性が高いため、一体的な実施による業務の効率化を図る必要があります。弁当の日の実施校は年々増えており、平成 29 年度からは市内の全小中学校で、少なくとも年 1 回は実施しています。しかし、弁当を持参すること自体が困難である世帯もあることから、取組の内容についても検討する必要があります。地域の支援者（退職教員、民生員、SSW（スクールソーシャルワーカー）、婦人会、OB、保護者等）の協力により継続して子どもの家が運営できており、放課後の子どもたちの安全で安心して過ごせる居場所となっています。課題としては、子どもの家事の委託先である名護子育て支援塾の事務局員がここ数年の間に何度も替わるなど、事務局体制が脆弱で事業運営に影響がでていることから、安定した事業運営ができるよう体制強化の支援に向けて取り組む必要があります。
-------	--

		P (計画)	D (実施)	C (検証・評価)		A (改善)			
		当該年度事業計画	取組内容	検証	自己評価	内部評価 (意見)	外部評価 (意見)	次年度事業計画	
主な取組	① 「家庭教育支援事業」の充実	家庭教育支援事業の「家庭教育支援チーム」と連携し、親の家庭教育に関する学びの機会を提供します。家庭の教育力を高めるための「やーなれー運動*」「親の学びあいプログラム*」や講座等を実施します。	○つながるWaRaBarプロジェクトの実施 ・親の学びの場提供 ・親の集う場の提供  ○ニーズ調査	○つながるWaRaBarプロジェクト実施 ・親の学びの場及び交流の場の提供 (11 回開催 参加者のべ 122 人) ・地域における支援体制づくり (人材育成) 講座 (7 回開催 41 人) ・新規地域家庭教育支援チーム 2 チーム ・継続地域家庭教育支援チーム 活動 2 チーム 合計 5 回 ○ニーズ調査実施	ニーズ調査結果をもとに、各種講座を実施し、人材育成に取り組んだ。家庭教育支援チームについては、各小学校校区への配置は進まなかった。家庭教育支援事業の充実のため、CS との連携を図ることを目的とし、名護市 CS 推進委員会学校家庭地域協働部会で家庭教育支援事業について、協議を行った。	B	【全体について】 ・どの取組も、地域、民生委員等の知恵や協力を得て、発展・充実させてほしい  【②について】 ・家庭状況により弁当を準備することができない子がいるとすることで、事前に把握できなかったのかというところが悔やまれる。また、こどもの家庭等とも連携できることがあると良い。	【②について】 ・子どもが作る弁当の日は、もう一歩進めて、弁当を持参できない子どもを発見することや理解が不足している家庭や教職員に啓発活動を行うといった新たな充実できる取組が必要かと思う。  【③について】 ・教育の日の取組は、CS の活動発表や各学校によって特色ある取組を全面に出すと良い。	・親の学びの場提供 ・親の集う場の提供
	② 弁当の日の実施	子どもが弁当を 1 人で作ることで食への興味を引出し、命の尊さや料理を作る人への感謝の気持ちを育むため、名護市内のすべての市立小中学校において引き続き弁当の日を推進します。	・全小中学校で実施 ・各学校における弁当の日取組状況アンケート実施 ・未実施校へ実施の働きかけ及び支援策検討	・遠足や土曜授業参観等の学校行事にお弁当の日を設定 (年 1 ～ 3 回) し実施 ・学校給食センター連絡協議会において、各学校の取組状況について情報共有を実施 ・弁当の日の取組について学校へアンケート調査を実施	・ほぼ全ての学校が学校行事等に合わせて計画し実施した。 ※実施校 全 21 校中 20 校 (小 12 校、中 8 校) ・各学校へ取組状況のアンケート調査を実施した結果、弁当の日の取組はおおむね好評であった。一方で、「家庭状況により準備できない生徒がいる。」という回答もあった。	B	・弁当の日の取組により「親子の会話が増えた」や「弁当の日をきっかけに食への関心が高まった」等の声も聞かれるので、これからも継続的な取組を望む。  ・弁当の日の充実に向けて、学校現場へのサポートと課題解決に向けての取組の推進をお願いしたい。	【④について】 ・子どもの家事について、新規開設が 2 つあったとのことで、これまでの取組の成果として評価できる。	・全小中学校で実施 ・各学校における弁当の日取組状況アンケート実施
	③ 「名護市教育の日」の充実	市民の教育に対する意識と関心を高めるとともに、家庭、学校、地域、関係機関・団体が互いに連携し、地域全体で子どもたちを守り育てる環境づくりに取り組むことで、自らの「生きる力」を育み、「命の大切さや命のつながり」を後世へと伝え、夢と希望に満ちあふれた子どもたちを育てるため、1 月の「名護市教育月間」において、様々な関連行事を開催し、1 月の第 3 日曜日の「名護市教育の日」の周知に努めます。	・「名護市教育の日」の周知拡大 ・1 月の「名護市教育月間」にあわせた関連事業の開催 ・社会教育団体等、協賛団体との連携	・市民のひろば、ホームページ及び名護市民会館・名護市営市場の大型電光掲示板、QAB データ放送、名護市公式 SNS を活用し周知を図った。  ・各種関連事業について、式典含め 4 件実施した。  ・教育の日の実施に当たっては、地域全体で子どもたちを守り育てる環境づくりに取り組むため、社会教育団体等 (29 団体) へ協賛依頼し、連携を図った。  ・令和 6 年度は、イベントの在り方について、学校や教職員の負担軽減を図る開催の仕方に見直しを行いながら内容については、更なる充実を図っている。具体的には、学校にある既存資料を活用した発表にすることで、教職員等の負担軽減を図る。また参加者数については、授業の一環として参加を呼びかけていたのを自由参加という形式に見直した	令和 5 年度からイベントのあり方や内容について、学校や教職員の負担軽減を図る開催の仕方に見直したこともある。今後も教育功労者表彰及び児童生徒等表彰の実施や教育の日関連事業を推進し、教育に関する意識と関心を高め、地域全体で子どもたちを守り育てていく環境づくりに取り組んでいく。	A	【③について】 ・各学校の特質や特徴をもっとアピールし、児童生徒の確保に繋がるような教育の日になると良いと思う。  ・働き方改革もあり、学校や教職員の負担を軽減する意図も理解できるが、学校・保護者・地域参加型 (CS 推進) の取組も検討する必要がある。  【④について】 ・子どもの家事については、小規模校の児童数確保に向けた放課後の居場所づくりにつながることで、その点からも事業の継続と充実に向けてほしい。地域からの期待も大きいものがある。	・「名護市教育の日」の周知 ・1 月の「名護市教育月間」に併せた関連事業の開催 ・社会教育団体等、協賛団体との連携	

				・1月の教育の日開催後は、開催内容及び表彰者等の人数を市民のひろばへ掲載した。				
④「子どもの家」支援事業の	放課後の居場所に困っている子どもとその父母を支援するために、地域の公民館や集会所等を活用して、地域の支援者の人材確保に努め、現在開所している子どもたちの放課後の居場所「子どもの家」の継続に取り組み、地域の皆で地域の子どものを育てます。	・支援者向け勉強会の実施 ・情報交換会（R6.2月） ・支援者確保に関する取り組み（通年）	・新規開設に向けた調整会議（真喜屋小、瀬喜田小、安和区） ・支援者確保に関する取り組み（通年）	新規開設の要望があった地域について、区長や学校関係者、サポーターと調整を行い、2カ所の子どもの家について新たに開設した。また、安和区については、R7.4月より新規開設することで調整することができた。	A			・支援者向け勉強会の実施 ・情報交換会 ・支援者確保に関する取り組み（通年）
		令和6年度 目標値 子どもの家実施数 【18カ所】	令和6年度 実績値 子どもの家実施数 【16カ所】					令和7年度 目標値 子どもの家実施数 【17カ所】
総合評価						B	A	

具体的施策名	Ⅲ-1-(3) 社会教育団体の活性化
主管課	地域経済部 各支所、地域力推進課

現状・課題	「名護市子ども会育成連絡協議会」「名護市青年ネットワーク連合会」「名護市婦人会」「名護市PTA連合会」ともに積極的、活発に活動に取り組んでいますが、社会教育団体は、各区等の団体や会員の加入、役員の担い手不足など、これまでと同様に課題が残っています。 従来のイベント型や動員型の活動や取組になるのではなく、時代に応じた組織の有り方、団体へのニーズや必要性、活動内容の改善など、各社会教育団体自ら抱える課題について会員相互が議論し、どのような活動や役割が望まれるのか、団体の活性化に自ら試行錯誤する取組が望まれています。
-------	---

P (計画)

D (実施)

C (検証・評価)

A (改善)

			当該年度事業計画	取組内容	検証	自己評価	内部評価 (意見)	外部評価 (意見)	次年度事業計画
主 な 取 組	①各支所 (社会教育主事) による地域の社会教育団体支部組織等の支援	各支所管内の社会教育団体の課題を把握するため、支所職員が地域活動や団体活動に向かうよう努め、課題解決に向けた手立てを住民とともに考え、社会教育団体活動の実践を支援します。	<p>【名護市青少年育成協議会羽地支部】</p> <p>(1)地域学習(稲田小)</p> <p>(2)平和講演会(稲田小・真喜屋小)</p> <p>(3)羽地内海シーカヤック</p> <p>(4)真喜屋の滝リバートレッキング</p> <p>(5)羽地展</p> <p>(6)子ども豊年祭 mini</p> <p>(7)避難小屋体験</p> <p>【名護市老人クラブ連合会羽地支部】</p> <p>(1)グラウンドゴルフ大会</p> <p>(2)ゲートボール大会</p> <p>(3)芸能大会</p> <p>(4)パークゴルフ大会</p> <p>(5)市老連、北部老連事業への参加</p> <p>(6)老人女性合同運動会</p> <p>【北支部体育協会】</p> <p>(1)やんばる駅伝大会派遣</p> <p>(2)球技・格技大会</p> <p>(3)陸上競技大会</p> <p>【その他・地域支援】</p> <p>(1)羽地地域小学校稲作体験</p> <p>(2)ぶり手や黄金海岸クリーン運動</p> <p>(3)羽地ダム自然体験学習カヤックツアー</p> <p>(4)普久川エリア保全利用協定</p>	<p>【名護市青少年育成協議会羽地支部】</p> <p>全て実施</p> <p>【名護市老人クラブ連合会羽地支部】</p> <p>全て実施</p> <p>【北支部体育協会】</p> <p>全て実施</p> <p>【その他・地域支援】</p> <p>全て実施</p>	<p>令和6年度は、各種団体の活動はすべて計画どおり実施することができた。</p> <p>青少協羽地支部は、平和学習や羽地展などの活動を軸に、会員相互に連携して事業を実施することが出来た。コミュニティ・スクールの地域学校協働推進員が関わっていて、学校との連携もうまくいっている。</p> <p>その他の団体活動も役員の担い手不足など課題がある中で、事業を実施することが出来ている。</p> <p>羽地地区センターでは各種団体・サークル等が活発に活動している。また、図書室も併設されており、社会教育団体の活動に寄与する施設となっている。</p> <p>今後は、各種団体の課題についてヒアリング等を実施し、解決できそうな課題から取り組んでいきたい。</p>	B	<p>【全体について】</p> <p>・屋部支所は、社会教育主事の代わりにCSが上手く機能していて、屋我地支所は、令和7年度から Happy アコウ's がそれを担ってくれるということだが、地域によって偏りが生じないか、心配である。</p> <p>・各支部とも地域に根ざした特色ある取組がなされ、地域力の維持に繋がっていると思う。しかし、どの地域でも団体への新規加入や役員の担い手不足が課題になっており、活性化を図るための施策が必要と思う。</p> <p>【①について】</p> <p>・各支所ともに地域に密着した取組で特色があって良い。</p> <p>・社会教育団体とCSとの連携を推進して、協働的な活動につながるよう期待する。</p> <p>【②について】</p> <p>・地域人材を育てるのは意義があってとても良い。</p> <p>・学校対抗クイズ大会は、地域の特色等を問題にし、</p>	<p>【全体について】</p> <p>・各支所で抱える課題が様々あるかと思うが、活動をしっかりとされていると思うので、今後とも、継続した取組をお願いしたい。</p> <p>・以前いた社会教育主事がいれば、もっと充実した取組ができるが、現状ではないのでCSと絡めた人材の活用が望まれる。</p> <p>【①について】</p> <p>・各支所の取組は、地域の特長を活かしながら十分に実施されている。</p> <p>【②について】</p> <p>・会員数が減少している団体について、支援の方法を引き続き検討していただきたい。</p>	<p>【名護市青少年育成協議会羽地支部】</p> <p>(1)地域学習(羽地小・真喜屋小)</p> <p>(2)平和講演会(羽地中・真喜屋小・羽地小・稲田小)</p> <p>(3)羽地内海カヤック体験</p> <p>(4)真喜屋の滝リバートレッキング</p> <p>(5)羽地展 (戦後80年関連展示)</p> <p>(6)羽地子ども豊年祭 mini</p> <p>(7)避難小屋体験</p> <p>【名護市老人クラブ連合会羽地支部】</p> <p>(1)グラウンドゴルフ大会</p> <p>(2)ゲートボール大会</p> <p>(3)芸能大会</p> <p>(4)パークゴルフ大会</p> <p>(5)市老連、北部老連事業への参加</p> <p>【北支部体育協会】</p> <p>(1)やんばる駅伝大会派遣</p> <p>(2)球技・格技大会</p> <p>(3)陸上競技大会</p> <p>【その他・地域支援】</p> <p>(1)羽地地域小学校稲作体験</p> <p>(2)ぶり手や黄金海岸クリーン運動</p> <p>(3)普久川エリア保全利用協定</p>

			久志支所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・久志地域森林体験事業 (青少協)</li> <li>・スポーツ交流会</li> <li>・ソフトバレーボール大会</li> <li>・図画・書初め展</li> <li>・青少年育成者実践発表会</li> <li>・文集「まごころ」第58巻発行</li> <li>(老人会)</li> <li>・各レクリエーション(ゲートボール、グランドゴルフ等)</li> <li>・老人婦人運動会</li> <li>・視察研修</li> <li>(女性会)</li> <li>・老人婦人運動会</li> <li>・視察研修</li> <li>(久志体協)</li> <li>・やんばる駅伝競走大会</li> <li>・各種競技大会</li> <li>・久志駅伝大会</li> <li>・20kmロードレース大会</li> <li>【地域活性化への支援】</li> <li>フラワーフェスティバルへの協力</li> <li>二見以北振興計画の策定</li> </ul>	<p>二見あかカラシナ作りについて(2)、アウトドア活動(2)、縄跳び体験会(1)、なんとなく作り学習(2)、稲作体験(1)(計8回開催)</p> <p>(実施) スポーツ交流会 親子陸上教室(ソフトバレー大会から変更) 図画・書初め展 文集「まごころ」第58巻発行 青少年育成者実践発表会</p> <p>(実施) グランドゴルフ大会 ゲートボール大会 芸能レク大会 視察研修</p> <p>(中止) 老人・婦人運動会</p> <p>令和6年度定期総会にて久志支部女性会の解散が決定した。 解散理由:久志支部から脱退する区が増え、会員数の減、役員の担い手不足が深刻になり存続が困難となった。</p> <p>(実施) 各種競技大会(バレー、ソフトボール・野球、ボウリング) 久志駅伝大会 20kmロードレース大会</p> <p>(中止) やんばる駅伝競走大会 →参加希望者なし</p> <p>(実施) フラワーフェスティバル 二見以北振興計画策定</p>	<p>森林等体験事業は、久志地域を対象を広げ、久辺小・中学校でも事業を実施することができた。子供の内から地域の食・文化を学び、日常生活では体験できないことに触れ、自身の糧とすることで、地域人材の育成にも寄与できた。</p> <p>各種団体の活動は、全体として計画通りに進めることができた。特に「久志駅伝・20kmロードレース大会」では、準備段階から関係各所との連携を密にし、地域との間に強い信頼の絆を築くことができた。</p> <p>その一方で、大会当日の交通渋滞について、多くの苦情が寄せられた。この点を踏まえ、今後は市が主催する他の類似イベントとの統合や、開催時間を半日に短縮するなど、よりスムーズな運営に向けた改善に取り組む必要がある。</p> <p>また、久志支部女性会が令和6年度で解散となっており、担い手不足が深刻化している。このことは、その他の社会教育団体においても共通の課題となっていることから、各種団体の維持・存続ができるよう支援を継続していく。</p> <p>令和6年度の大きな成果として、「名護市二見以北地域活性化基本計画」を策定した。この計画によって、地域が目指す未来の姿(基本理念)と、そこへ至るための取り組み方(基本方針)等が示された。今後は、地域一体となって、この計画を力強く推進し、地域活性化の実現に向けて取り組んでいく。</p>	A	<p>地域に目を向けた出題で良かった。生徒も意欲的に取り組んでいたので、継続した開催を期待する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・久志地域森林体験事業(計8回開催予定)</li> <li>(青少協)</li> <li>・スポーツ交流会</li> <li>・陸上教室</li> <li>・図画・書初め展</li> <li>・青少年育成者実践発表会</li> <li>・文集「まごころ」第60巻発行</li> <li>(老人会)</li> <li>・各レクリエーション(ゲートボール、グランドゴルフ、パークゴルフ(新規))</li> <li>・視察研修</li> <li>・芸能レク大会</li> <li>(久志体協)</li> <li>・やんばる駅伝競走大会</li> <li>・各種競技大会</li> <li>・久志駅伝大会</li> <li>【地域活性化への支援】</li> <li>・フラワーフェスティバルへの協力</li> <li>・二見以北振興計画関連の協議会運営</li> <li>・二見以北10区地域コミュニティ事業への補助金交付</li> </ul>
--	--	--	------	--	--	---	---	--	--	---

			<p>令和6年度 【青少協屋部支部】 ・鯉のぼり掲揚式 4月26日 掲揚式実施 ・夜間街頭指導 7月27、28日参加 ・映画上映会 11月時点 今後実施検討 ・にじ祭り親子ふれあい事業 11月3日 MY横笛づくり 実施 ・キックベースボール大会 11月時点今後実施予定 ・ドッジビー大会 8月11日開催</p> <p>【老人クラブ】 ・グラウンドゴルフ大会 6月9日開催 ・パークゴルフ大会 11月22日予定 ・レクリエーション大会 8月22日開催 ・老人婦人運動会 10月6日開催 ・サークル活動（囲碁、筋トレ、ゴルフ、R6より_パークゴルフサークル_始動） サークル会会員にて自主的に開催</p> <p>【その他】 ・第11回屋部川七色にじ祭り 11月3日開催 11月3日開催 ・新支所を拠点とした事業の検討 屋部支所内会議室を活用し、夏休み期間中の中学生を対象とした自主学習の場としての「自習室」の場所提供の取り組み 7月23日から9回設置・提供</p>	<p>令和6年度 【青少協屋部支部】 ・鯉のぼり掲揚式 4月26日 ・慰霊の日企画 6月9日「へいわのためのおはなしのひる、猫と山羊」紙芝居、朗読、うた、音楽 ・リコーダーミニコンサート（三育中学校卒業生）7月18日 ・夜間街頭指導 7月27日・28日参加 ・学校・家庭・地域連携部事業 ドッジビー大会8月11日 巨大バレーボール大会2月16日 創作民話劇「鬼慶良間」2月22日 スポーツインテグリティ研修 3月13日 ・にじ祭り親子ふれあい事業 MY横笛づくり11月3日</p> <p>【老人クラブ】 グラウンドゴルフ大会 6月9日開催 ・パークゴルフ大会 11月28日開催 ・レクリエーション大会 8月22日開催 ・老人婦人運動会 10月6日開催 ・サークル活動 囲碁大会4/19、5/22、6/19 ゴルフコンパ 5/16、7/18、9/30 R6より_パークゴルフサークル_始動）サークル会会員にて自主的に開催</p> <p>【その他】 ・第11回屋部川七色にじ祭り 11月3日開催 ・新支所を拠点とした事業の検討 屋部支所内会議室を活用し、夏休み期間中の中学生を対象とした自主学習の場としての「自習室」の場所提供の取り組み 7月23日から9回設置・提供</p>	<p>平和学習事業として慰霊の日企画「へいわのためのおはなしのひる、猫と山羊」紙芝居、朗読、うた、音楽及び創作民話劇「鬼慶良間」を開催し、次世代の子どもたちに平和の尊さを学べる場を提供し平和意識への向上に寄与することができた。また、地域の方々には命の大切さを再認識する事業とすることができた。</p> <p>スポーツ事業として実施したスポーツインテグリティ研修は、名桜大学と連携し屋部地域のスポーツ指導者及び保護者にスポーツマネジメントの重要性と役割を共有できる環境作りを図れた。</p> <p>老人クラブにおいては、サークル会員による自主性に重点を置き、指導及び支援を行った。それにより、各サークル活動が活発に運営され地域の活性化に繋がった。</p> <p>屋部支所は、新庁舎となり地域住民が集う重要施設となっている。今後は、平和・スポーツ事業を継続しながら、文化・学習事業を充実させ、更なる地域発展に寄与することが最大の目標であると考えている。そのためには、CSの存在が重要な位置を占めるとともに、地域住民を始め様々な分野の方と意見交換をし、地域に必要なものは何かを常に模索し続け取り組み、支援し続けていく必要がある。</p>	A			<p>令和7年度 【青少協屋部支部】 ・鯉のぼり掲揚式 4月25日掲揚式実施 ・ドッジビー大会 8月17日開催 ・にじ祭り親子ふれあい事業 MY横笛づくり お金 の話実施 11月2日開催 ・新春書き初め大会 1月上旬 ・キックベースボール大会 1月中旬 ・1月24～25日 名 護桜まつり夜間該当指導 【老人クラブ】 ・グラウンドゴルフ大会 6月15日開催 ・パークゴルフ大会 11月20日予定 ・レクリエーション大会 8月21日開催 ・老人婦人運動会 10月12日開催 ・サークル活動（囲碁、筋トレ、ゴルフ、パークゴルフサークル_始動）サークル会会員にて自主的に開催</p> <p>【その他】 ・第12回屋部川七色にじ祭り 11月2日開催 ・地区センターを拠点とした事業の検討 地区センター内会議室を活用し、テスト期間前の中学生を対象とした自主学習の場としての「自習室」の場所提供の取組の検討 ・地区センターの屋上を活用した星空観測会の検討</p>
--	--	--	--	---	---	---	--	--	---

			<p>【青少年育成協議会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Happy アコウ' s の運営</li> <li>・三・四世代交流の実施</li> <li>・ミニやがじ展の開催</li> </ul> <p>【北支部体協支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・球技、格技大会の運営</li> <li>・やんばる駅伝の運営</li> <li>・陸上競技大会の運営</li> </ul> <p>【老人会支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各レクリエーション活動の支援</li> <li>・市老人クラブへの参加を支援</li> </ul> <p>【地域活性化への支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やがじ祭りの実施協力</li> <li>・屋我地ひるぎ学園学校運営協議会へ参加・協力</li> <li>・地域貢献活動への協力</li> </ul>	<p>【青少年育成協議会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Happy アコウ' s (屋我地ひるぎ学園5～9年生対象) による人材育成及びリーダー育成</li> <li>・三・四世代交流会を2回実施(11月、2月)</li> <li>・屋我地支所ロビーにてミニやがじ展を開催</li> </ul> <p>【北体協支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・球技・格技大会実施</li> <li>・やんばる駅伝大会実施</li> <li>・陸上競技大会実施</li> </ul> <p>【老人会支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レクリエーション活動(グランドゴルフ、モルック、歩け歩け探索)</li> <li>・市老人クラブへの参加を支援(ボウリング大会、ゲートボール大会等)</li> </ul> <p>【地域活性化への支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やがじ祭りは、5年ぶりに開催</li> <li>・屋我地ひるぎ学園学校運営協議会への参加</li> <li>・旧屋我地中学校体育館の貸出実施(空手、古武道、居合、バスケットボール、バレーボール等)</li> </ul>	<p>次世代の子どもたちの育成を中心に活動を行い、各種活動に参画することで郷土愛を持つ心を養えた。</p> <p>令和2年度以降、社会教育主事の配置が無いため、特に青少年人材育成の取り組みについて支援の方法や考え方に苦慮している部分がある。</p> <p>屋我地地域は担い手や若者が少ないことから各種団体(子ども会、青年会、婦人会、老人会)の横の連携や支援の難しさが挙げられる。</p> <p>各種行事への支援について、各区長と連携し住民の積極的な参加を促しながら主体的な取組となるよう支援したい。</p>	B		<p>【青少年育成協議会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Happy アコウ' s の運営</li> <li>・三・四世代交流の実施</li> <li>・ミニやがじ展の開催</li> </ul> <p>【北支部体協支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・球技、格技大会の運営</li> <li>・やんばる駅伝の運営</li> <li>・陸上競技大会の運営</li> </ul> <p>【老人会支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各レクリエーション活動の支援</li> <li>・市老人クラブへの参加を支援</li> </ul> <p>【地域活性化への支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やがじ祭りの実施協力</li> <li>・屋我地ひるぎ学園学校運営協議会へ参加・協力</li> <li>・地域貢献活動への協力</li> </ul>
②各種社会教育団体等の活動の支援	<p>「名護市子ども会育成連絡協議会」「名護市青年ネットワーク連合会」「名護市婦人会」「名護市PTA連合会」等の活動を支援し、時代に応じた組織の有り方や活動内容など、各社会教育団体自ら、抱える課題の改善に向け会員が相互に議論し、団体の活性化に自ら試行錯誤し取り組めるよう、団体指導者研修会等を実施し支援します。</p> <p>令和6年度 目標値 社会教育団体指導者研修会への参加者数 【120名】</p>	<p>名護市女性会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会、勉強会の治氏</li> </ul> <p>名護市社会教育委員会議主催 中学校対抗クイズ大会の実施</p> <p>※女性会、青年会においては会員数が大幅に減少している現状を鑑みてR5年度実績を参考に目標値を設定した。</p> <p>令和6年度 目標値 社会教育団体指導者研修会への参加者数 【80名】</p>	<p>名護市女性会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会、勉強会(7月13日) ◇27名</li> </ul> <p>名護市社会教育委員会議主催 中学校対抗クイズ大会の実施 ◇75名</p> <p>青少年育成指導者研修ワークショップの開催(2月14日) ◇17名</p> <p>令和6年度 実績値 社会教育団体指導者研修会への参加者数 【119名】</p>	<p>研修会等の実施については、計画通りに実施する事が出来た。</p> <p>しかし、各支援団体の課題解決のためには、継続的な支援が必要であり、今後も互いに連携し継続的に支援する必要がある。</p>	A		<p>名護市女性会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会、勉強会の実施</li> </ul> <p>名護市社会教育委員会議主催 中学校対抗クイズ大会の実施</p> <p>令和7年度 目標値 社会教育団体指導者研修会への参加者数 【120名】</p>	
総合評価						A	A	

## V 用語一覧

### <施策順>

施策 No.	用語	意味
I-1-(1)	家庭学習チームシート	国頭地区における学力向上推進に係る取組の一つ。自主的に家庭学習に取り組めるように、学校ごとに学年単位、低・中・高学年単位等でチームを組み学校における実践事項をまとめたシートのこと。
I-1-(2)	キャリア教育	一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育のこと。
I-1-(2)	キャリアパスポート	自らの学習状況やキャリア形成見通ししたり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価出来る様工夫されたポートフォリオのこと。
I-1-(2)	ジョブシャドウイング	児童が企業の社員に半日又は1日、密着し職場での仕事について観察して学ぶ取り組みのこと。
I-1-(3)	通級	特別支援教育の制度の一つで、軽度の障害がある児童が通常の学級に在籍しているながら、通級指導教室で特別の教育を受けることの出来る制度のこと。
I-1-(3)	特別支援教育	障害のある児童の自立や主体的な取組を支援し、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行う教育のこと。
I-1-(5)	キャリアステージ	組織内における役割分担のレベルを示す基本的な考え方。
I-1-(5)	スタートカリキュラム	小学校に入学した児童がスムーズに学校生活へ適応していけるように編成した第1学年入学当初の教育課程のこと。
I-1-(5)	保幼小	保育園・幼稚園・認定こども園・小学校
I-1-(5)	幼保連携型認定こども園	幼稚園機能と保育所機能の両方を合わせて持つ単一の施設で小学校就学前の子供の教育・保育・子育て支援を一体的に提供する施設。
I-2-(1)	ICT	情報通信技術(Information and communications technology)の略
I-2-(1)	デジタル教科書	紙の教科書の内容全てを電子黒板やタブレットなどにデジタル化した教材。
I-2-(2)	イマージョン教育	英語を教科として学ぶのではなく、英語はあくまで手段として理科や算数などの教科を、英語を媒介として学んでいく教育法。
I-2-(2)	コミュニティ・スクール	学校と地域住民等がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで「地域とともにある学校づくり」を進める法律に基づいた仕組みのこと。
I-2-(2)	TT 授業	チーム・ティーチングの略で複数の教員が役割を分担し協力しながら指導計画を立て指導する方式のこと。

I-2-(2)	統合型校務支援システム	教務系、保健系、学校事務系など統合した機能を有しているシステムを指し、広く「校務」と呼ばれる業務全般となる機能を実施したシステムのこと。
I-2-(2)	乗り入れ授業	小学校の先生が中学校へ、中学校の先生が小学校へ行って授業を教えること。
II-1-(2)	フィールドワーク	現地を実際に訪れ直接観察したり、関係者に聞き取り調査を行うなどして、現地での資料採取を行うこと。
II-2-(1)	ブックスタート	赤ちゃんとその保護者に絵本の読み聞かせ体験と絵本1冊をプレゼントすること。
II-2-(1)	ベストリーダー	よく読まれた本、貸し出しの多かった本のこと。
II-2-(1)	レファレンスサービス	図書館利用者が学習・研究・調査を目的として必要な情報・資料などを求めた際に、図書館員が利用者の調べ物をサポートする業務。
II-2-(2)	サービスポイント	利用者が図書館サービスを受ける場のこと。移動図書館「がじまる号」の巡回場所。
II-3-(1)	アウトリーチ	家庭や日常生活の場に出向きサービスや活用可能なサービスの情報を届けること。
II-3-(1)	ワークショップ	参加者自身が討論に加わったり、体を使って体験したりするなど、参加体験型、双方向性のグループ学習。
II-4-(1)	eスポーツ	通称エレクトロニック・スポーツでコンピュータゲームをスポーツ・競技として捉える際の名称。
II-5-(3)	スポーツコンベンション	屋内、屋外競技の全般を対象とし、コンベンション（大会・集会）という視点からスポーツにおけるキャンプ、合宿、大会、イベント、試合、自主トレなどが含まれる。
III-1-(2)	親の学びあいプログラム	沖縄県が推奨する、学校や幼稚園、身近な地域でお互いに交流しながら、楽しく学び合うことができる参加型（ワークショップ型）学習プログラムのこと。
III-1-(2)	やーなれー運動	沖縄県が推奨する、家庭、学校、地域が連携し、家庭教育力の向上を図る運動のこと。 「やーなれーる ふかなれー」：家庭でのしつけや習慣が外に出たときのかがみになるという意味を持ち、こどもの健やかな成長にとって家庭教育は大切だということ。

<五十音順>

	用語	意味	施策 No.
ア	ICT	情報通信技術(Information and communications technology)の略	I-2-(1)
	アウトリーチ	家庭や日常生活の場に出向きサービスや活用可能なサービスの情報を届けること。	II-3-(1)
	eスポーツ	通称エレクトロニック・スポーツでコンピュータゲームをスポーツ・競技として捉える際の名称。	II-4-(1)
	イマージョン教育	英語を教科として学ぶのではなく、英語はあくまで手段として理科や算数などの教科を、英語を媒介として学んでいく教育法。	I-2-(2)
	親の学びあいプログラム	沖縄県が推奨する、学校や幼稚園、身近な地域でお互いに交流しながら、楽しく学び合うことができる参加型(ワークショップ型)学習プログラムのこと。	III-1-(2)
カ	家庭学習チームシート	国頭地区における学力向上推進に係る取組の一つ。自主的に家庭学習に取り組めるように、学校ごとに学年単位、低・中・高学年単位等でチームを組み学校における実践事項をまとめたシートのこと。	I-1-(1)
	キャリア教育	一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育のこと。	I-1-(2)
	キャリアステージ	組織内における役割分担のレベルを示す基本的な考え方。	I-1-(5)
	キャリアパスポート	自らの学習状況やキャリア形成見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価出来る様工夫されたポートフォリオのこと。	I-1-(2)
	コミュニティ・スクール	学校と地域住民等がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで「地域とともにある学校づくり」を進める法律に基づいた仕組みのこと。	I-2-(2)
サ	サービスポイント	利用者が図書館サービスを受ける場のこと。移動図書館「がじまる号」の巡回場所。	II-2-(2)
	ジョブシャドウイング	児童が企業の社員に半日又は1日、密着し職場での仕事について観察して学ぶ取り組みのこと。	I-1-(2)
	スタートカリキュラム	小学校に入学した児童がスムーズに学校生活へ適応していけるように編成した第1学年入学当初の教育課程のこと。	I-1-(5)
	スポーツコンベンション	屋内、屋外競技の全般を対象とし、コンベンション(大会・集会)という視点からスポーツにおけるキャンプ、合宿、大会、イベント、試合、自主トレなどが含まれる。	II-5-(3)
タ	通級	特別支援教育の制度の一つで、軽度の障害がある児童が通常の学級に在籍していながら、通級指導教室で特別の教育を受けることの出来る制度のこと。	I-1-(3)

	TT 授業	チーム・ティーチングの略で複数の教員が役割を分担し協力しながら指導計画を立て指導する方式のこと。	I-2-(2)
	デジタル教科書	紙の教科書の内容全てを電子黒板やタブレットなどにデジタル化した教材。	I-2-(1)
	統合型校務支援システム	教務系、保健系、学校事務系など統合した機能を有しているシステムを指し、広く「校務」と呼ばれる業務全般となる機能を実施したシステムのこと。	I-2-(2)
	特別支援教育	障害のある児童の自立や主体的な取組を支援し、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行う教育のこと。	I-1-(3)
ナ	乗り入れ授業	小学校の先生が中学校へ、中学校の先生が小学校へ行って授業を教えること。	I-2-(2)
ハ	保幼小	保育園・幼稚園・認定こども園・小学校	I-1-(5)
	フィールドワーク	現地を実際に訪れ直接観察したり、関係者に聞き取り調査を行うなどして、現地での資料採取を行うこと。	II-1-(2)
	ブックスタート	赤ちゃんとその保護者に絵本の読み聞かせ体験と絵本1冊をプレゼントすること。	II-2-(1)
	ベストリーダー	よく読まれた本、貸し出しの多かった本のこと。	II-2-(1)
ヤ	やーなれー運動	沖縄県が推奨する、家庭、学校、地域が連携し、家庭教育力の向上を図る運動のこと。 「やーなれーる ふかなれー」: 家庭でのしつけや習慣が外に出たときのかがみになるという意味を持ち、こどもの健やかな成長にとって家庭教育は大切だということ。	III-1-(2)
	幼保連携型認定こども園	幼稚園機能と保育所機能の両方を合わせて持つ単一の施設で小学校就学前の子供の教育・保育・子育て支援を一体的に提供する施設。	I-1-(5)
ラ	レファレンスサービス	図書館利用者が学習・研究・調査を目的として必要な情報・資料などを求めた際に、図書館員が利用者の調べ物をサポートする業務。	II-2-(1)
ワ	ワークショップ	参加者自身が討論に加わったり、体を使って体験したりするなど、参加体験型、双方向性のグループ学習。	II-3-(1)